福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1364 集

那（な）珂（か） 79

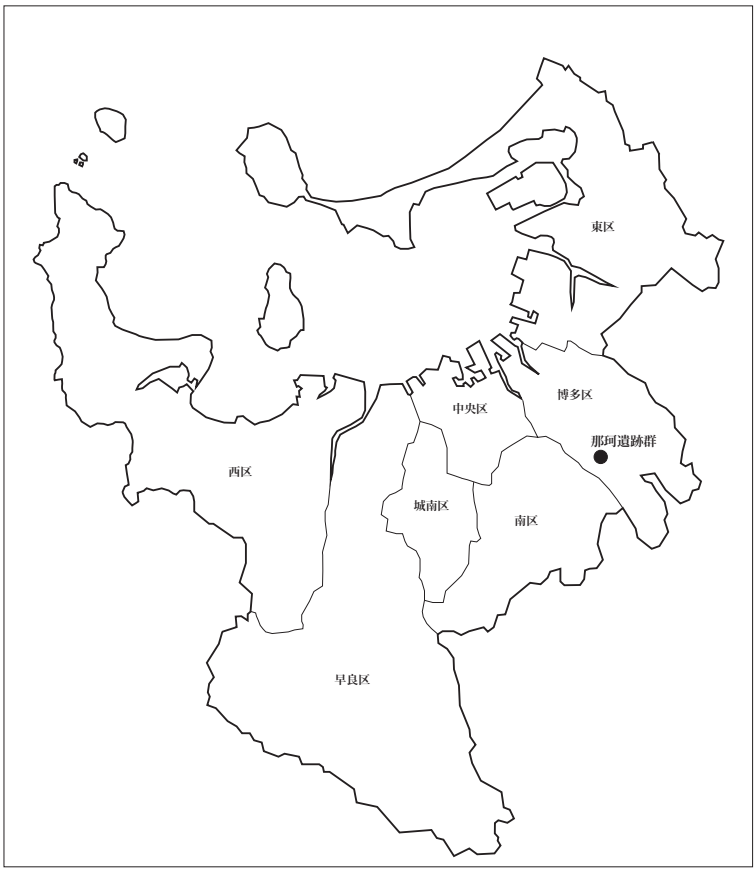
－那珂遺跡群第 171 次調査報告－

２０１９
福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1364 集

那（な）珂（か） 79

－那珂遺跡群第 171 次調査報告－



遺跡略号　ＮＡＫ－１７１
調査番号　１７０８

２０１９
福岡市教育委員会

序

玄界灘に面して広がる福岡市は、大陸・半島と一衣帯水の関係にあり、古くから大陸・半島との窓口として発展し、市内には数多くの遺跡・埋蔵文化財が存在します。その一方で都市の発展に伴う開発行為により、やむを得ず失われる遺跡・埋蔵文化財が数多くあり、これらを後世に伝えることは、本市の重要な責務であります。本市教育委員会では、失われる遺跡については事前に発掘調査を行い、その記録保存に努めています。

本書は、博多区那珂 1 丁目における共同住宅建築に伴い実施した那珂遺跡群第 171 次発掘調査について報告するものです。

この調査では古墳周溝・住居跡・井戸等を検出するとともに、弥生時代から中世にかけての遺物が多数出土しました。 これらは地域の歴史の解明のためにも重要な資料となるものです。今後、本書が文化財保護に対する理解と認識を深める一助になると共に、学術研究の資料としてもご活用いただければ幸いに存じます。

最後になりましたが、事業主様をはじめとする関係者の方々には、発掘調査から本書の作成に至るまで、ご理解とご協力を賜りました。ここに心からの感謝を表します。

平成 31 年 3 月 25 日

福岡市教育委員会

教育長　星子　明夫

例言・凡例

1　本書は、博多区那珂 1 丁目地内における共同住宅開発事業に先だって、福岡市教育委員会が、平成 29 年度に発掘調査を実施した那珂遺跡群第 171 次調査の報告書である。
　発掘調査及び整理報告書作成は、民間受託・国庫補助事業として実施した。

2　本書における作業分担は以下の通りである。

遺構実測	中園将祥
遺物実測	中園・野村美樹・林田憲三
拓本	中間千衣子
トレース	中園
遺構写真・遺物写真撮影	中園
ガラス玉分析	福岡市埋蔵文化財センター
執筆	第Ⅳ章：比佐陽一郎、その他：中園
編集	中園

3　本書で使用した方位は座標北であり、座標は世界測地系（第Ⅱ系）を用いている。

4　遺跡略号は NAK-171(那珂遺跡群第 171 次調査)・遺構略号は、SC(竪穴住居跡)、SD(溝状遺構)、SE(井戸)、SK(土坑)、SP(ピット)、SX(不明遺構) とし、出土遺物へは「NAK171 SC001 枝番など」と注記を施してあるが、本文では、遺構略号は使わず、「1 号住居跡」「1 号土坑」などと記載する。

5　本書に関わる図面・遺物・写真等の管理は、全て福岡市埋蔵文化財センターで行う予定である。

6　本書で報告する調査の基本情報は下表の通りである。

遺跡名	那珂遺跡群	調査次数	171 次	遺跡略号	NAK-171
調査番号	1708	分布地図図幅名	東光寺 37	遺跡登録番号	020085
事業対象面積	1698.46㎡	調査対象面積	1150.00㎡	調査面積	1046.00㎡
調査期間	平成 29 年 6 月 5 日～平成 29 年 9 月 22 日			事前審査番号	28-2-934
調査地	福岡市博多区那珂 1 丁目 806 番 1、807 番 1、808 番 1、809 番 1				

本文目次

第Ⅰ章　はじめに …… 1
⑴　調査に至る経緯 …… 1
⑵　調査の組織 …… 1

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境 …… 2
⑴　遺跡の位置と立地 …… 2
⑵　遺跡の歴史的、地理的環境 …… 2

第Ⅲ章　発掘調査の記録 …… 7
⑴　調査の概要 …… 7
⑵　遺構と遺物 …… 7
1) 古墳周溝 …… 7
2) 住居跡 …… 11
3) 不明遺構 …… 18
4) 井戸 …… 18
5) 溝状遺構 …… 22
6) 土坑 …… 32
7) ピット …… 41
⑶　まとめ …… 44

第Ⅳ章　自然科学分析 …… 47

挿図目次

第１図　調査地周辺遺跡分布図（S=1/25000）…… 3
第２図　那珂遺跡群調査地位置図（S=1/4000）…… 4
第３図　那珂遺跡群第１７１次調査区位置図（S=1/1000）…… 5
第４図　遺構配置図（S=1/200）…… 6
第５図　古墳周溝（S=1/2000 •1/400 •1/200 •1/40）…… 8
第６図　古墳周溝出土遺物（Ｓ =1/3）…… 9
第７図　古墳周溝出土遺物（Ｓ =1/3•1/6）…… 10
第８図　１号住居跡（S=1/60 •1/30）及び出土遺物（Ｓ =1/3）…… 12
第９図　２号住居跡（S=1/60 •1/30）及び出土遺物（Ｓ =1/3）…… 13
第 10 図　３号住居跡（S=1/60 ）…… 14
第 11 図　４号住居跡（S=1/60 ）及び出土遺物（Ｓ =1/3）…… 15
第 12 図　５号住居跡（S=1/60 ）及び出土遺物（Ｓ =1/3）…… 16
第 13 図　１号２号不明遺構（S=1/60 ）及び出土遺物（Ｓ =1/3）…… 17

第 14 図　1 号井戸（S=1/40）及び出土遺物（S =1/3 •1/4）…… 19
第 15 図　1 号井戸出土遺物（S =1/3）…… 20
第 16 図　1 号井戸出土遺物（S =1/3•1/6 •1/4）…… 21
第 17 図　方形周溝状遺構（S =1/100•1/40 ）及び出土遺物（S =1/3）…… 23
第 18 図　方形周溝状遺構出土遺物（S =1/3 •1/4）…… 24
第 19 図　区画溝（S =1/100•1/40 ）…… 25
第 20 図　区画溝出土遺物（S =1/3 •1/4）…… 26
第 21 図　大溝 2 号 3 号溝（S =1/150•1/100 ）及び出土遺物（S =1/3 ）…… 27
第 22 図　大溝 2 号 3 号溝出土遺物（S =1/3 •1/4•1/2）…… 28
第 23 図　9 号 10 号溝（S=1/40）…… 30
第 24 図　11 号 12 号 13 号 17 号溝（S=1/40）…… 31
第 25 図　4 号土坑（S=1/20）…… 32
第 26 図　1 号土坑（S=1/20）及び出土遺物（S =1/3 •1/6）…… 33
第 27 図　2 号 3 号土坑（S=1/20）及び出土遺物（S =1/3 ）…… 34
第 28 図　7 号土坑（S=1/20）及び出土遺物（S =1/3 ）…… 36
第 29 図　7 号土坑出土遺物（S =1/3•1/4 ）…… 37
第 30 図　5 号 6 号 8 号土坑（S=1/20）及び出土遺物（S =1/3 ）…… 38
第 31 図　ピット全体図その 1（S=1/200）…… 39
第 32 図　ピット全体図その 2（S=1/200）…… 40
第 33 図　ピット図その 1（S=1/100）…… 41
第 34 図　ピット図その 2（S=1/100）…… 42
第 35 図　ピット図その 3 • その 4（S=1/100）…… 43
第 36 図　ピット出土遺物（S =1/3 ）…… 44

写真目次

遺構写真 1 …… 51
遺構写真 2 …… 52
遺構写真 3 …… 53
遺構写真 4 …… 54
遺物写真 1 …… 55
遺物写真 2 …… 56
遺物写真 3 …… 57

第Ⅰ章　はじめに

⑴　調査に至る経緯

平成 29(2017) 年 1 月 27 日、共同住宅建設に先立ち、福岡市博多区那珂 1 丁目地内における埋蔵文化財の有無について、福岡市経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課事前審査係に、照会文書が提出された (事前審査番号 28-2-934)。申請地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である那珂遺跡群に含まれており、申請者に試掘調査の必要性がある旨を回答した。その後、平成 29 年 4 月 14 日に、試掘調査を行い、地表下 15cm ～ 60cm において遺構面が残っており、溝状遺構・ピット等の遺構が確認され、事前に埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査が必要であるとの結論に達した。この成果を受けて、埋蔵文化財課では申請者と協議を行い、申請地面積 1698.46㎡のうち遺構の破損が考えられる 1150㎡について、一部に国庫補助金を適応し、発掘調査を行い、記録保存を図る事で協議が成立した。

発掘調査は、平成 29 年 6 月 5 日～ 9 月 22 日に行い、調査面積 1046㎡、遺物はコンテナ約 10 箱分出土している。資料整理及び報告書作成は、翌平成 30(2018) 年度に行う事となった。

なお現地での発掘調査にあたっては、調査委託者を始めとする関係者の皆さまには多大なご理解と協力を賜りました。ここに記して謝意を表します。

⑵　調査の組織

調査を実施した平成 29 年度および資料整理・報告を実施した平成 30 年度の組織は以下の通りである。

調査委託：	個人			
調査主体：	福岡市教育委員会			
調査総括：	経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課	課長	常松幹雄	(29 年度)
		調査第 1 係長	吉武学	(29 年度)
整理報告総括：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課	課長	大庭康時	(30 年度)
		調査第 1 係長	吉武学	(30 年度)
調査庶務：	経済観光文化局文化財部文化財保護課	管理調整係	松尾智仁	(29 年度)
整理報告庶務：	経済観光文化局文化財活用部文化財活用課	管理調整係	松尾智仁	(30 年度)
事前審査：	経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課	事前審査係長	本田浩二郎	(29 年度)
		事前審査係	中尾祐太	(29 年度)
		事前審査係	朝岡俊也	(30 年度)
調査担当：	経済観光文化局文化財部埋蔵文化財課		中園将祥	(29 年度)
整理報告担当：	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課		中園将祥	(30 年度)
調査作業：	岩永いさ子　今林利道　上原尚子　岡嵜文一郎　唐島榮子　木原尭　久保サヨ子 小島君子　下田和弘　田中健　田中トミ子　塚副義一郎　綱嶋年朗　唐尚輝 中山洋治郎　野内聖司　原野容子　林田昌俊　牧之角健太　森一夫　山下宏昭			
整理作業：	上田結加　執行恭子　田中朋香　中間千衣子　萩尾朱美　原周生　森藤博文			

(五十音順・敬称略)

第Ⅱ章　遺跡の位置と環境

⑴　遺跡の位置と立地

福岡平野とは、東を三郡山地、南を脊振山地によって囲まれ、北は玄界灘に向かって開口する博多湾に面した地の総称であり、多々良川等によって形成された糟屋平野、御笠川・那珂川流域に広がる狭義の福岡平野、室見川流域に広がる早良平野に細分できる。

那珂遺跡群は、狭義の福岡平野中央部、那珂川と御笠川に挟まれた春日丘陵から伸びる標高 5.0 ～ 9.0 mの洪積台地上に位置する。この洪積台地は、花崗岩風化礫層を基盤とし、その上層に阿蘇火砕流による八女粘土層と鳥栖ローム層の堆積により形成される。

⑵　遺跡の歴史的、地理的環境

那珂遺跡群（第 1 図 1）は、北側に隣接する比恵遺跡群（第 1 図 2）とは一連の遺跡群を構成すると考えられており、東西約 0.8㎞、南北約 2.4㎞、標高 5.0 m～ 9.0 mをはかる同じ丘陵上に立地している。しかし浅い谷によって区分されており、那珂遺跡群の範囲としては東西約 0.8㎞、南北約 1.6㎞と推定される。南側にも浅い谷を挟んで細長い台地が続いており五十川遺跡（第 1 図 4）があり、さらに南には須玖岡本遺跡（第 1 図 22）を中心とした遺跡群が広がる。また周辺の台地上には、麦野Ａ・Ｂ・Ｃ遺跡（第 1 図 15•16•17）、井尻Ｂ遺跡（第 1 図 11）、諸岡Ａ・Ｂ遺跡（第 1 図 8•9）、高畑遺跡（第 1 図 7）、板付遺跡（第 1 図 6）があり、弥生時代から、中世にかけての集落や墓地が連綿と展開しており、特に弥生時代から古代にかけては、濃密な分布状態を示している。さらに台地周辺の低地では、水田が営まれていたと考えられ、板付遺跡、那珂君休遺跡（第 1 図 5）などで、水田跡が検出されている。

那珂遺跡群では、これまでに 170 次の調査が行われ、丘陵上において連綿と営まれた旧石器時代から中近世に至るまでの遺構・遺物が確認されている。

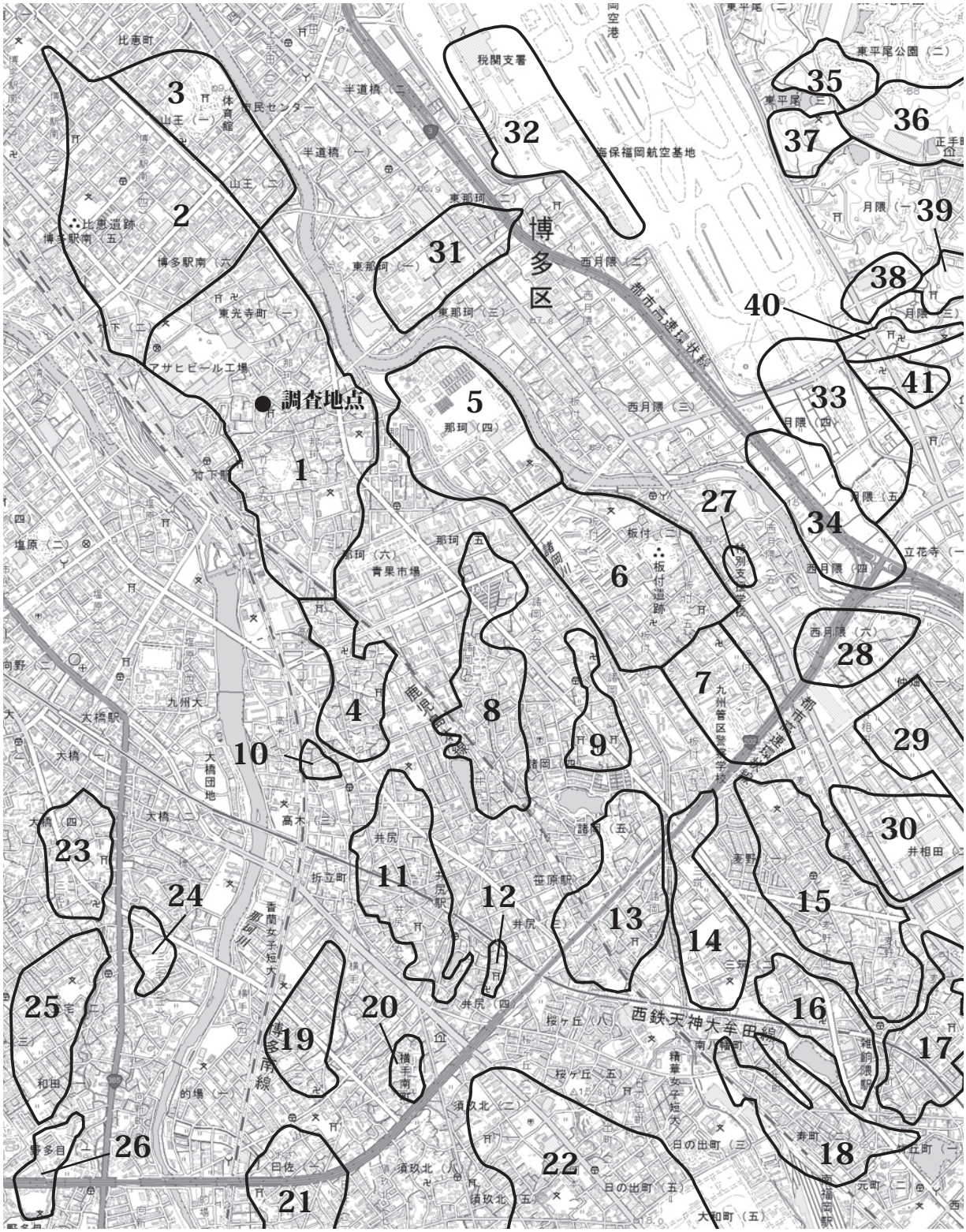
旧石器時代、縄文時代の明確な遺構は検出されていないが、ナイフ形石器などの旧石器時代の石器が出土しており、また縄文時代の遺物も断片的に出土しており、これらの時代においてのあり方については、今後の調査成果が待たれる。

弥生時代になると台地周辺部で住居や貯蔵穴などの遺構が拡がり、台地の南西縁では、二重環濠集落が確認されており、中期以降には、東西に横断する大規模な区画溝や大型の掘立柱建物、墳丘墓などの遺構が検出されている。

また弥生時代後期から古墳時代前期には、道路状遺構や福岡平野で最古期の前方後円墳である全長約 86 mの那珂八幡古墳を中心とした墓域や集落へと発展していく。

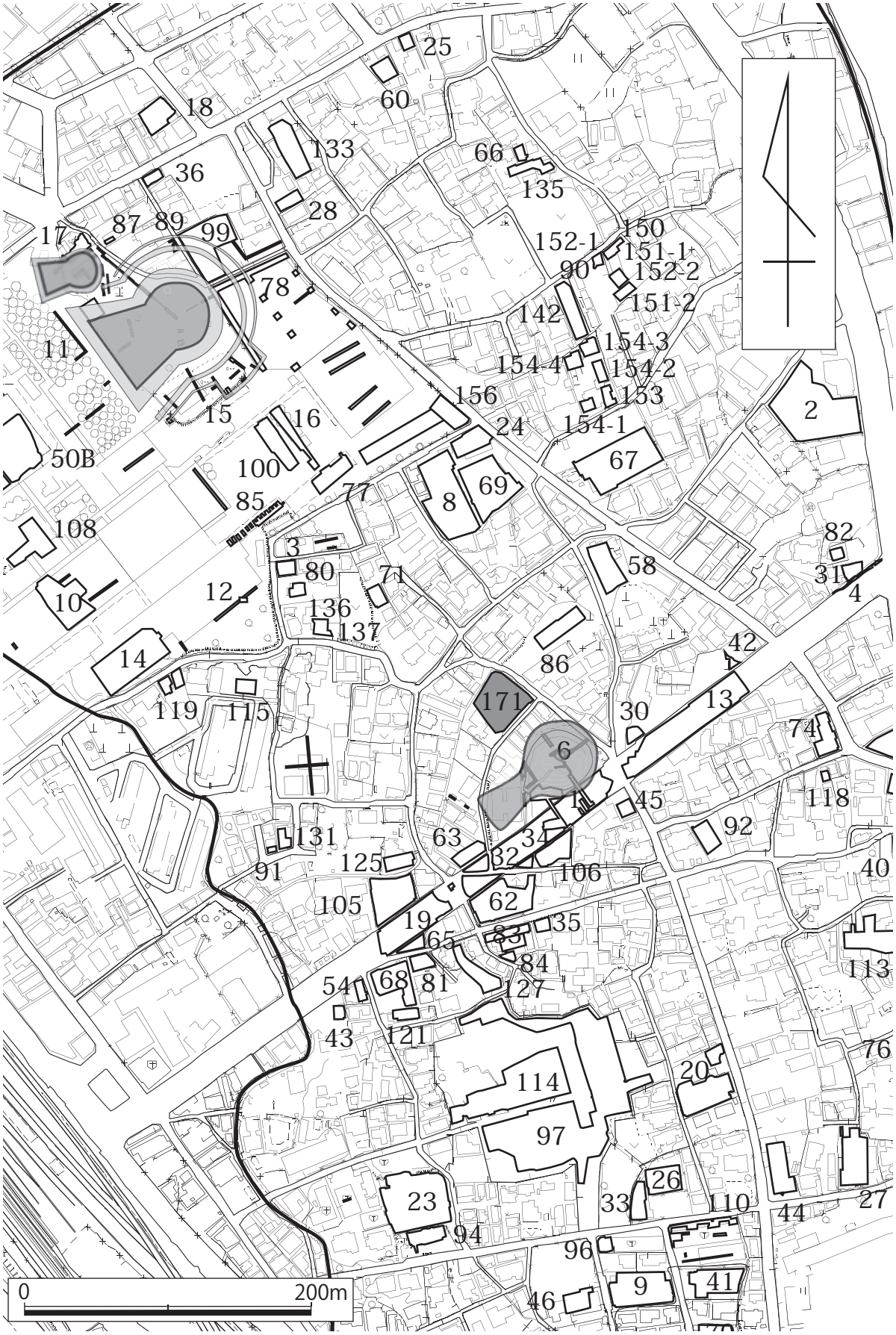
古墳時代後期以降になると大型の掘立柱建物や柵列が検出されており、「那津官家」を形成する官衙施設との関連が考えられ、古代には、正方位の溝や井戸などが検出されており、また初期瓦が出土しており、「那珂郡衙」などの施設や寺院との関連が考えられる。

続く中世には、台地上に溝で区画された遺構が存在し、この時期まで福岡平野内において中心的な役割を担っていたと考えられる。



1. 那珂遺跡群　2. 比恵遺跡群　3. 山王遺跡　4. 五十川遺跡　5. 那珂君休遺跡　6. 板付遺跡　7. 高畑遺跡　8. 諸岡A遺跡
9. 諸岡B遺跡　10. 井尻A遺跡　11. 井尻B遺跡　12. 井尻C遺跡　13. 笹原遺跡　14. 三筑遺跡　15. 麦野A遺跡
16. 麦野B遺跡　17. 麦野C遺跡　18. 南八幡遺跡　19. 横手遺跡群　20. 寺島遺跡　21. 曰佐遺跡　22. 須玖・岡本遺跡
23. 大橋E遺跡　24. 三宅B遺跡　25. 三宅C遺跡　26. 野多目A遺跡群　27. 板付東遺跡　28. 井相田D遺跡　29. 仲島遺跡
30. 井相田C遺跡　31. 東那珂遺跡　32. 雀居遺跡　33. 下月隈C遺跡　34. 立花寺B遺跡　35. 久保園遺跡　36. 席田大谷遺跡
37. 宝満尾遺跡　38. 天神森遺跡群　39. 下月隈A遺跡群　40. 下月隈B遺跡群　41. 上月隈遺跡群　●.171次調査地点

第1図　　調査地周辺遺跡分布図　（S＝1/25000）



第２図　　那珂遺跡群調査地位置図　（S ＝ 1/4000）

第 3 図　　那珂遺跡群第 171 次調査区位置図 （S ＝ 1/1000）

第 4 図　遺構配置図（S ＝ 1/200）

第Ⅲ章　発掘調査の記録

⑴　調査の概要

那珂遺跡群は、福岡平野の那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵に立地する遺跡群である。今回の第171次調査対象地は、那珂遺跡群の中央部、那珂八幡古墳の北西に位置し、遺構検出面の標高は約8.5～8.2ｍである。周辺では58・68次調査において集落跡が確認されている。

発掘調査は、平成２９年６月５日に、まず測量機器にて世界測地系による杭の設定等を行い、翌６日から重機による表土掘削を開始した。調査対象地の北側、約670㎡を第Ⅰ区とて重機による表土剥ぎ取り後、人力による遺構検出作業、遺構の掘り下げ、1/20縮尺の遺構図の作成、遺物取り上げ、写真撮影等を行い、８月10日に高所作業車から第Ⅰ区の全景を撮影し、22日に第Ⅰ区の調査を終了した。その後８月23日より第Ⅰ区の埋め戻し、ならびに第Ⅱ区の表土掘削を開始し、第Ⅰ区の調査と同じ手順で作業を進め、９月20日に高所作業車から第Ⅱ区の全景を撮影し、22日に全作業を終了した。

今回の調査で確認された遺構は、古墳周溝・住居跡・方形周溝状遺構・溝・井戸・土坑・ピットなどがあり、時代は弥生時代から中世にかけてである。出土遺物量は、コンテナボックス10箱である。

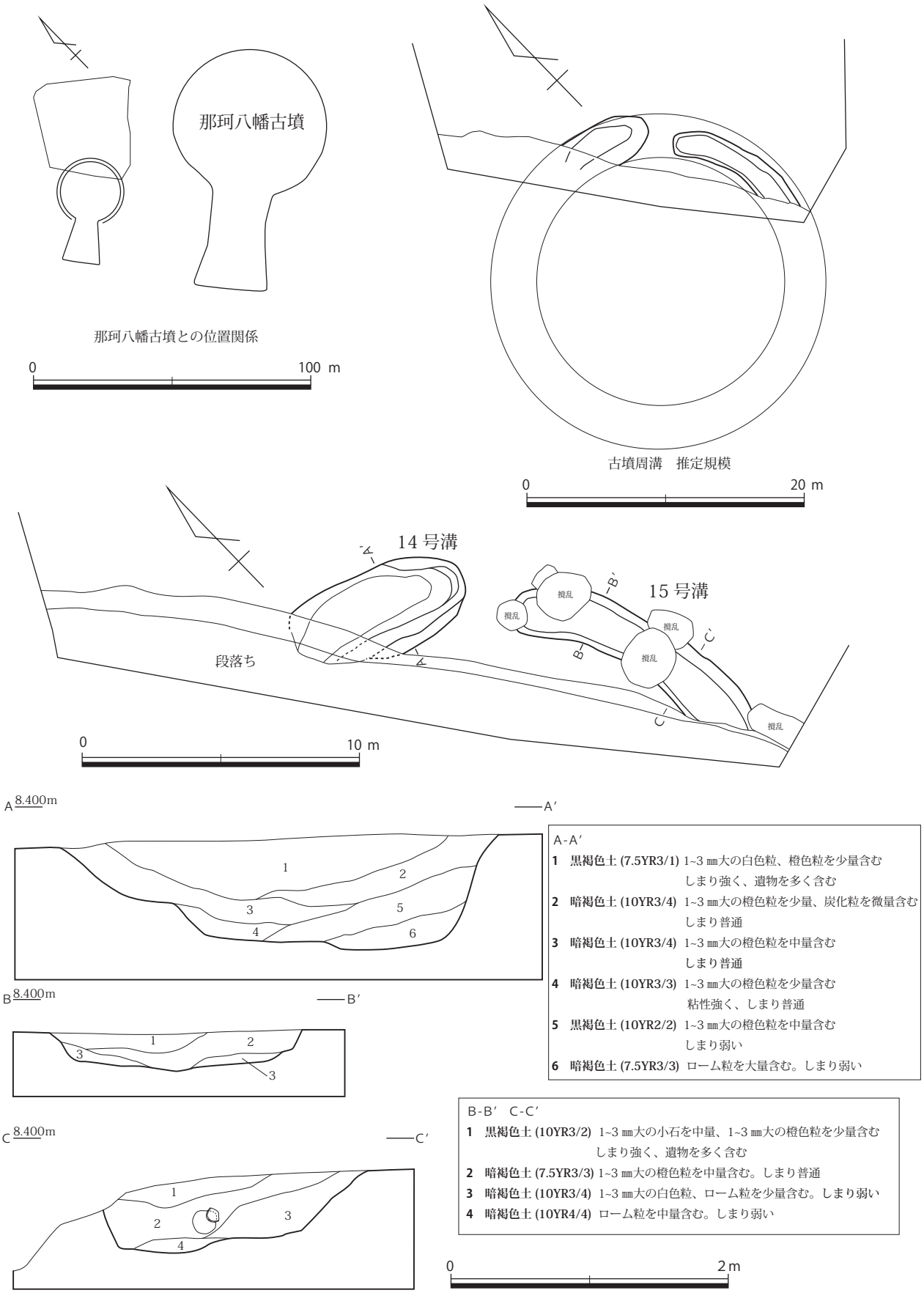
⑵　遺構と遺物

1）古墳周溝

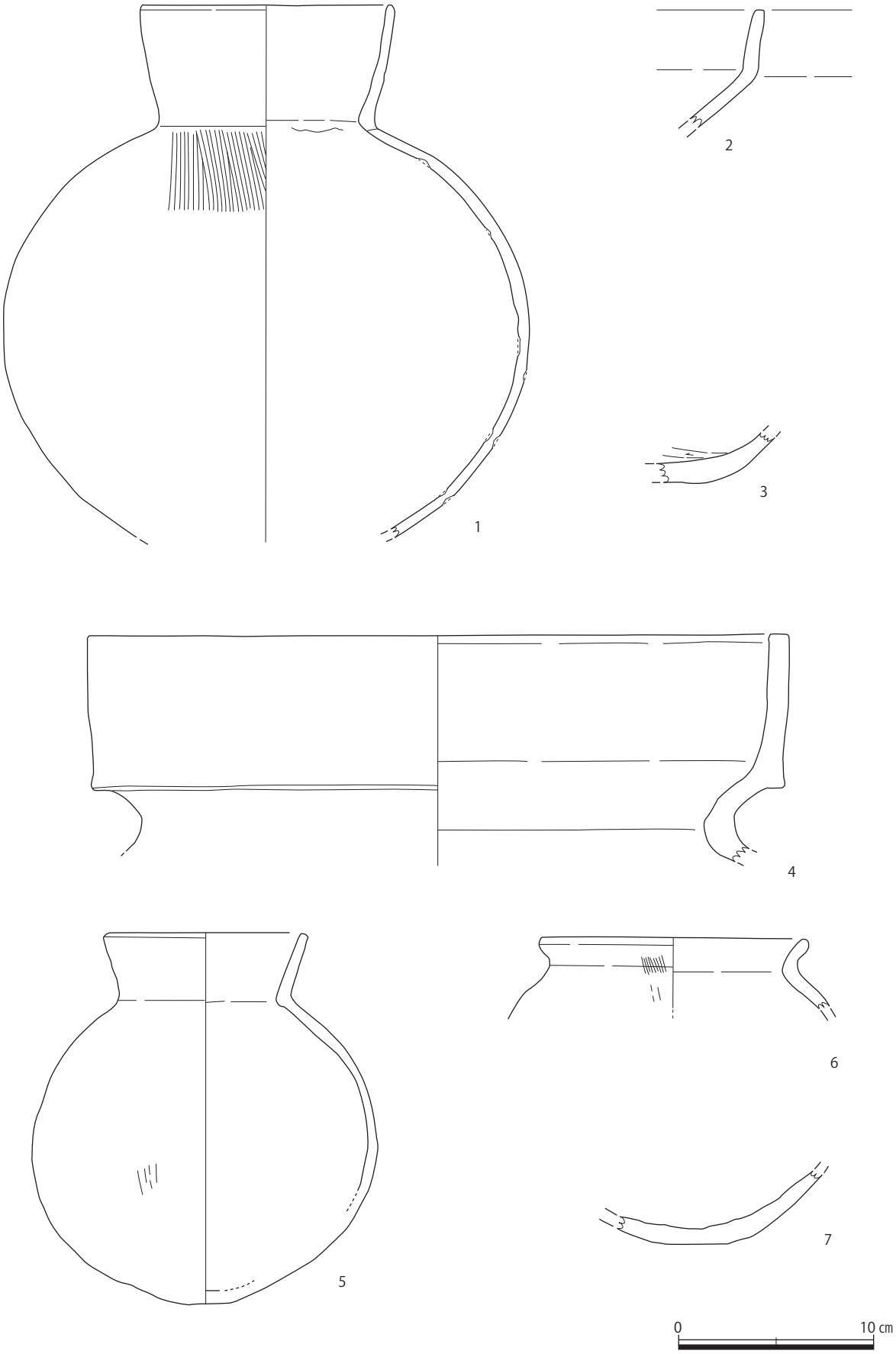
調査区南側から検出された14号溝と15号溝からなる古墳周溝である。南側の大半を後世の掘削による削平を受けており、残存率は２割程度である。推定される規模は周溝下端内法で約18ｍ前後、周溝を含むと約24ｍ前後である。14号溝は深さ85㎝程あり古墳主体部に向けては緩やかに立ち上がる。15号溝の深さは、33～55㎝と14号溝よりは浅い作りとなっている。

古墳の形状は残存率が２割程度である事から、推測でしかないが那珂八幡古墳との位置関係からすると円墳というよりは前方後円墳の可能性が高いと考えられる。時期は出土遺物から古墳時代初頭と考えられる。

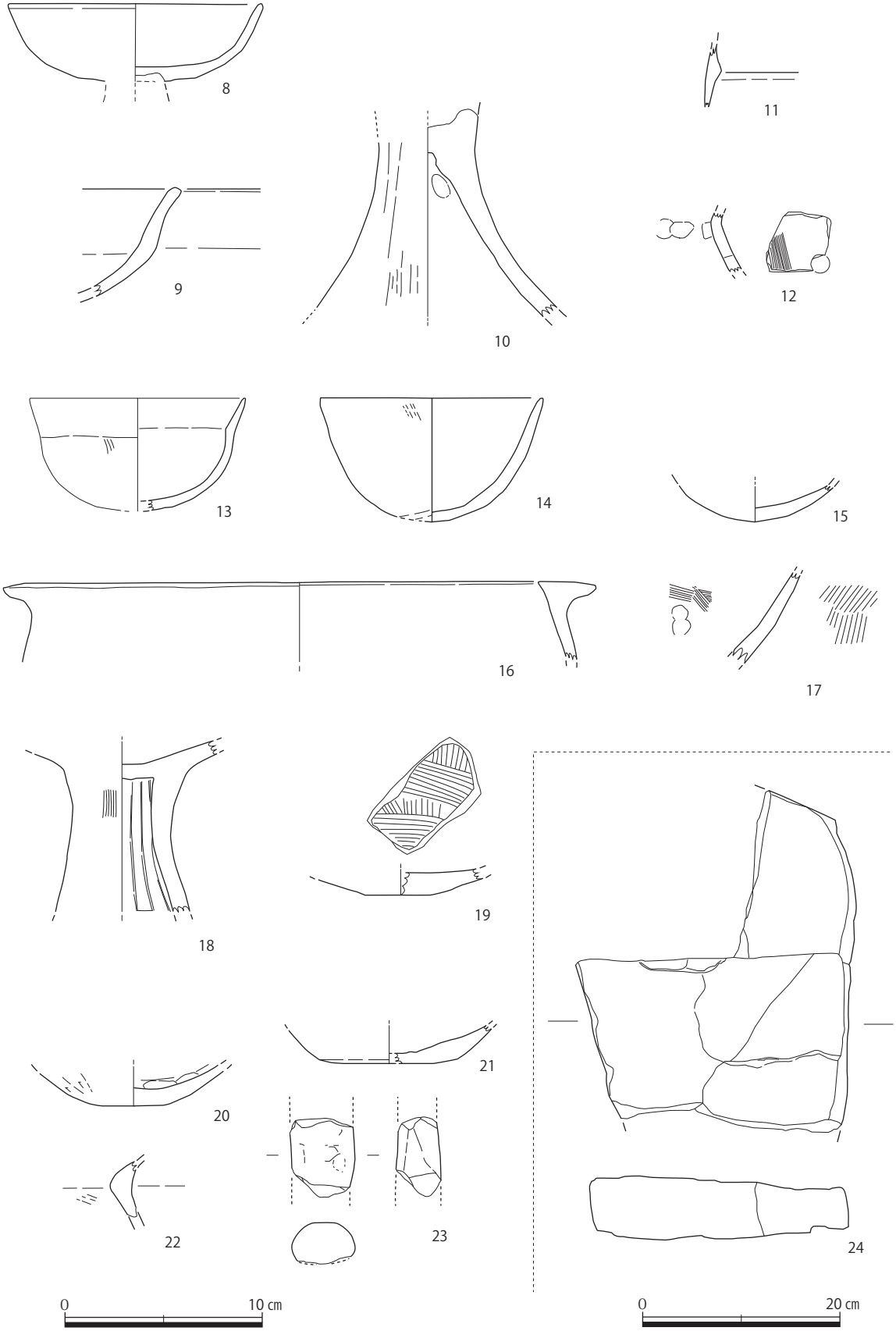
出土遺物（第６図・第７図）　**1**～**15**は土師器。**1**は壺。口径12.8㎝、残存高27.3㎝。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、頸部から胴部にかけては板状工具によるナデ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、頸部から胴部にかけては摩滅が激しく調整は不明だが、頸部付近にはハケ目が残る。**2**は壺の口縁部。口径不明、残存高6.0㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**3**は壺の底部。底径不明、残存高2.5㎝。内外面共にケズリ。**4**は二重口縁壺の口縁部。口径36.0㎝、残存高11.6㎝。内外面共にヨコナデ。外面には赤色顔料が施されている。**5**は甕。口径10.4㎝、高さ19.0㎝のほぼ完形品。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、頸部から胴部にかけては全体的に煤が付着しており調整は見にくいがケズリか。外面は摩滅が激しく調整不明。一部にハケ目が残る。また底部には煤が付着し一部赤く変色している。**6**は壺の口縁部。口径13.4㎝、残存高3.6㎝。内面はハケ。外面は



第 5 図　古墳周溝　（S ＝ 1/2000 •1/400 •1/200 •1/40）



第６図　古墳周溝出土遺物　（S ＝ 1/3）



第７図　古墳周溝出土遺物　（S ＝ 1/3•1/6）

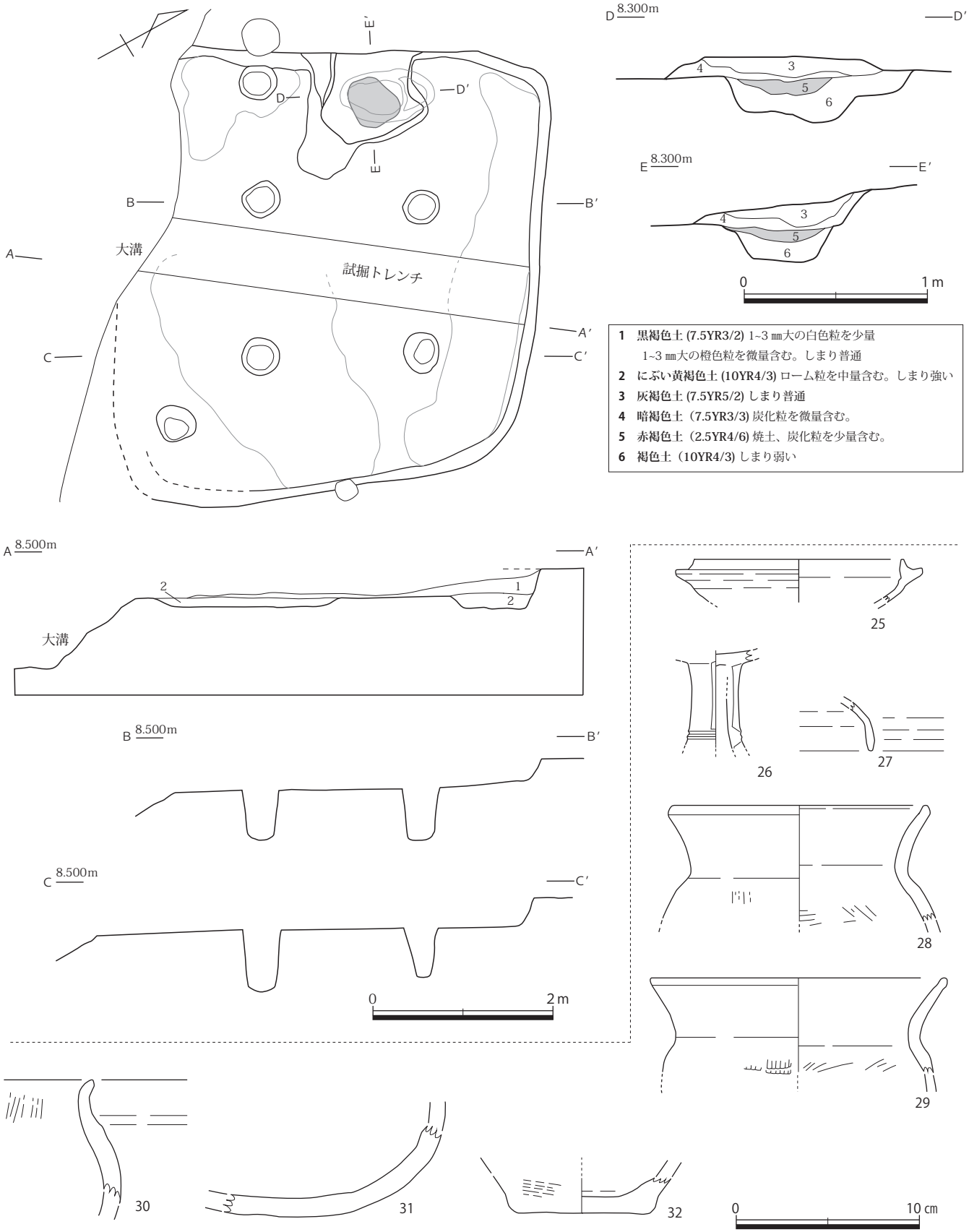
摩滅が激しく調整不明。頸部付近に一部ハケ目が残る。**7** は壺の底部。残存高 3.7㎝。内面ナデ。外面は摩滅が激しく調整不明。ハケ後ナデか。一部に煤が付着。**8** は高坏の坏部。山陰系の土器。口径 12.8㎝、残存高 3.9㎝。内面はナデ。外面は摩滅が激しいがナデか。**9** は高坏の坏部。口径不明、残存高 5.4㎝。内面はナデ。外面は摩滅が激しいがナデか。**10** は高坏の脚部。残存高 9.6㎝。脚部内面はナデ、一部指圧痕あり。外面はタテハケ後ミガキか、また一部に丹塗りが残る。**11** は二重口縁壺の口縁部。残存高 3.0㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**12** は高坏の脚部。残存高 3.0㎝。穿孔あり。内面はナデ、指圧痕あり。外面は細かいハケ目。**13** は鉢。口径 13㎝、残存高 5.6㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面には一部ハケ目が残る。**14** は鉢。口径 11.2㎝、残存高 6.3㎝。内面は摩滅が激しいがナデか。外面は摩滅が激しいがハケか。底部には粗いケズリが残る。**15** は鉢の底部。残存高 1.8㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明だがナデか。**16** ～ **23** は弥生土器。**16** は甕の口縁部。口径 30.0㎝、残存高 3.0㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面はヨコナデか。**17** は壺の底部片。残存高 5.0㎝。内面はハケ目、一部指圧痕あり。外面はタタキ。**18** は高坏の筒部。残存高 8.6㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面には一部ハケ目が残る。**19** は壺の底部。底径 3.0㎝、残存高 1.3㎝。内面はハケ目。外面は摩滅が激しく調整不明だがハケか。**20** は甕の底部。残存高 2.0㎝。内面はナデ、指圧痕あり。外面はケズリ。**21** は甕の底部。底径 7.0㎝、残存高 1.9㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**22** は甕の頸部。残存高 2.8㎝。内面は頸部にかけてハケ後ナデ、頸部から胴部にかけてはナデ。外面はナデ。**23** は青銅器の中子（中型）。最大長 4.0㎝、最大幅 2.1㎝、厚さ 2.1㎝。全体的に表面は熱を受けている。**24** は石棺の一部か。最大長 35.2㎝、最大幅 28.8㎝、厚さ 6.7㎝。石材は安山岩。

2) 住居跡

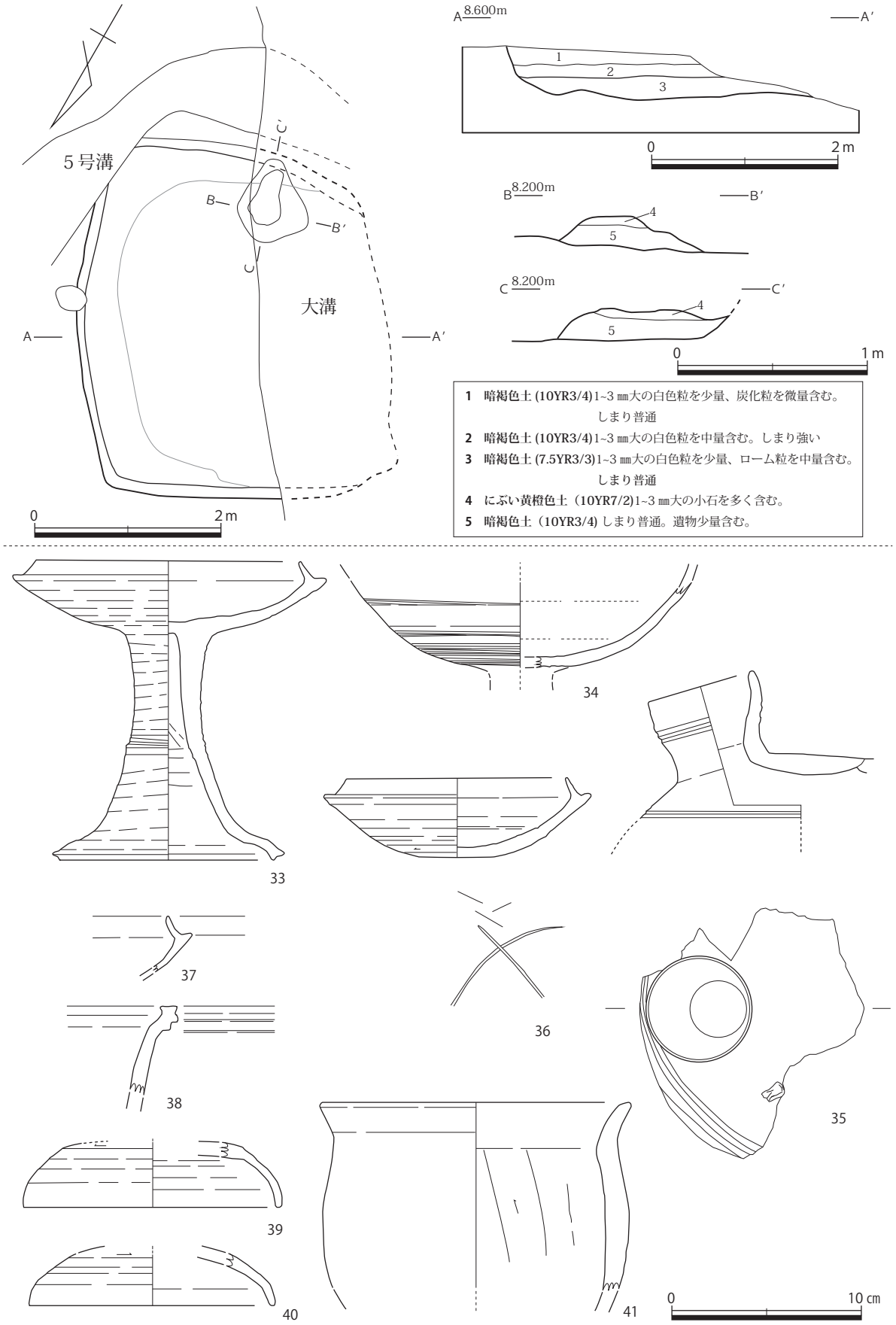
1 号住居跡（第 8 図）

調査区西側で検出された北西壁沿いに竈を有する 4 本主柱の竪穴住居跡である。住居規模は、南側 1/5 程度が後世の掘削による削平を受けているが、一辺 5 m前後の方形を呈する。遺構上部は掘削により削られており、正確な深さはわからないが、現状約 20㎝程が残る。1 層が埋土で 2 層が貼り床である。竈の残りは良くないが、灰褐色粘土層の下に、掘り込みがあり一部に比熱を受けた土が残る。時期は出土遺物から飛鳥時代前半から中頃と考えられる。

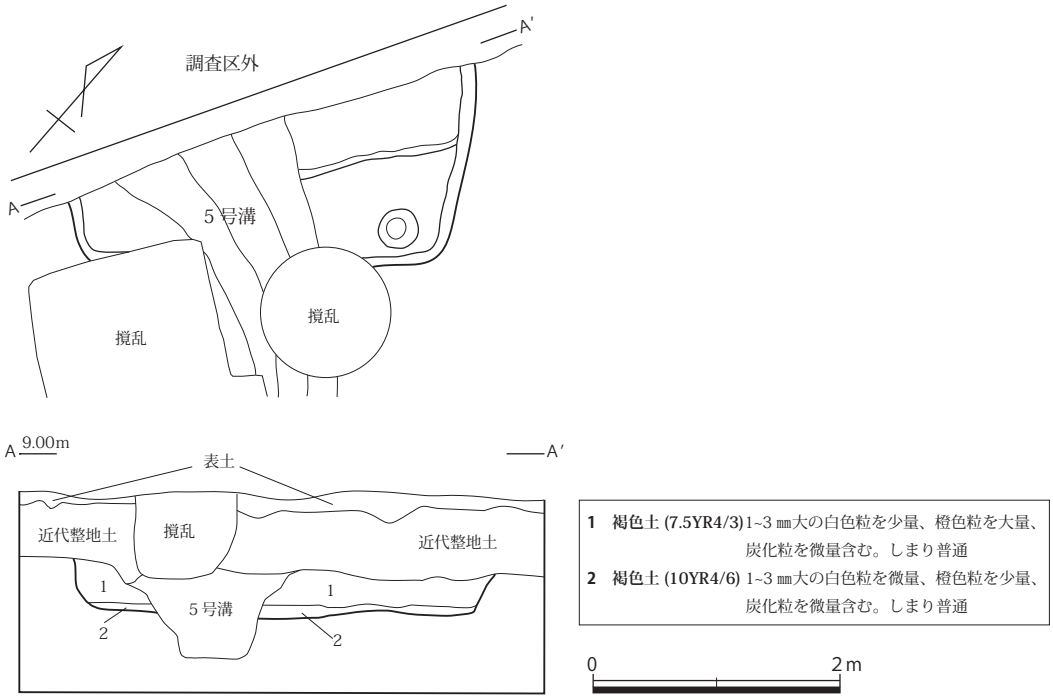
出土遺物（第 8 図） **25** ～ **27** は須恵器。**25** は坏身。口径 11.4㎝、受部径 13.6㎝、残存高 2.3㎝。内外面共に回転ナデ。**26** は高坏脚部。残存高 5.1㎝。透かしが 3 ヶ所入るがいずれも貫通はしていない。**27** は坏蓋。残存高 2.6㎝。内外面共に回転ナデ。**28** ～ **31** は土師器。**28** は甕の口縁部。口径 13.9㎝、残存高 6.2㎝。内面は口縁部から頸部にかけてナデ、頸部から胴部にかけてはハケ後ナデ。外面は口縁部から頸部にかけてナデ、頸部から胴部にかけてはハケ後ナデ。**29** は甕の口縁部。口径 16.0㎝、残存高 5.0㎝で。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、頸部から胴部にかけてはハケ後ナデ。**30** は甕の口縁部。口径不明、残存高 6.7㎝。内外面共に摩滅が激しいが、内面には一部ハケ目が残る。**31** は甕の底部。残存高は 5.0㎝。内面はナデ。外面は摩滅が激しく調整不明。**32** は弥生土器。甕の底部。底径 7.2㎝、残存高 1.9㎝。



第 8 図　1 号住居跡 (S ＝ 1/60•1/30) 及び出土遺物 (S ＝ 1/3)



第９図　２号住居跡 (S ＝ 1/60•1/30) 及び出土遺物 (S ＝ 1/3)



第 10 図　3 号住居跡（S ＝ 1/60）

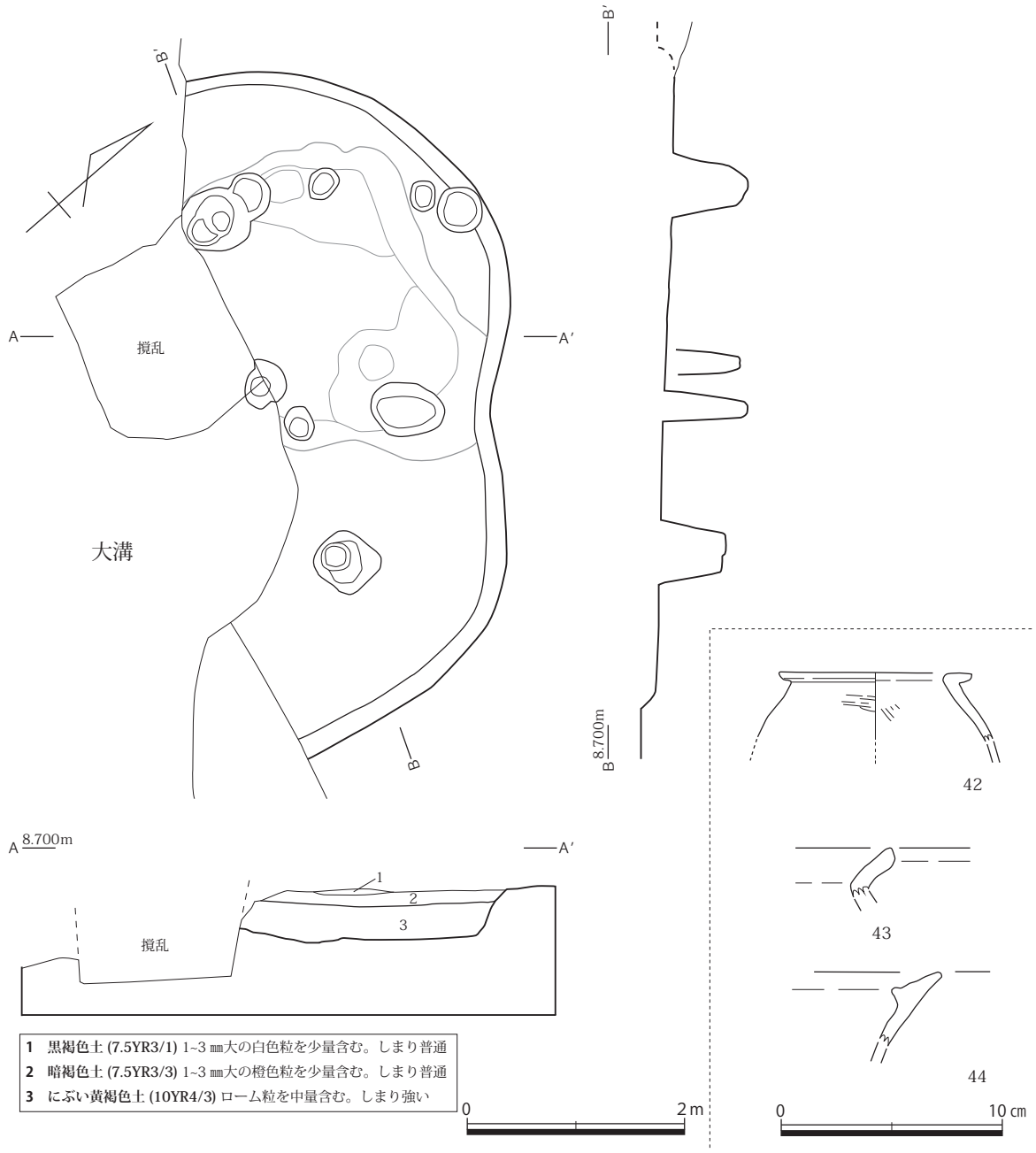
2 号住居跡（第 9 図）

調査区西側で検出された南壁沿いに竈を有する竪穴住居跡である。住居規模は、西側 1/2 を大溝に切られているが、一辺 3.7 m前後、深さ 30㎝の方形を呈する。1.2 層が埋土で 3 層が貼り床である。竈の残りは不良。時期は出土遺物から飛鳥時代前半と考えられる。

出土遺物（第 9 図）　**33** ～ **40** は須恵器。　**33** は有蓋高坏。口径 14.0㎝、受部径 16.6㎝、残存高 15.8㎝。内面はナデ。外面は回転ナデ、脚部内面はナデ。**34** は高坏坏部。口径不明、残存高 4.5㎝。内面は回転ナデ。外面は回転ナデ後カキメ。**35** は平瓶。口径 5.7㎝、残存高 7.7㎝。内面は口縁部から頸部にかけて回転ナデ、頸部から胴部にかけてはナデ。外面は回転ナデ。**36** は坏身。口径 11.7㎝、受部径 14.0㎝、高さ 4.1㎝。内面は回転ナデ。外面は回転ナデ、底部のみ回転ケズリ後静止ケズリ。ヘラ記号あり。**37** は坏身。口径不明、残存高 2.9㎝。内外面共に回転ナデ。**38** は甕。口径不明、残存高 4.7㎝。内外面共に回転ナデ。**39** は坏蓋。口径 13.6㎝、残存高 3.4㎝。内面は回転ナデ。外面は回転ナデ、頭頂部は回転ヘラケズリ。**40** は坏蓋。口径 13.0㎝、残存高 2.6㎝。内外面共に回転ナデ。**41** は土師器の甕。口径 16.2㎝、残存高 9.7㎝。内面はケズリ。外面は摩滅激しく調整不明。

3 号住居跡（第 10 図）

調査区北西側で検出された竪穴住居跡である。住居規模は、西側 1/2 が調査区外、遺構中央を溝に切られているが、一辺 3.2 m前後、深さ 15㎝の方形を呈すると思われる。1 層が埋土で 2 層が貼り床である。東部の一角が一段高くなっておりベッドを有していると考えられる。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は周辺の 1 号 2 号住居跡との関連から飛鳥時代と考えられる。

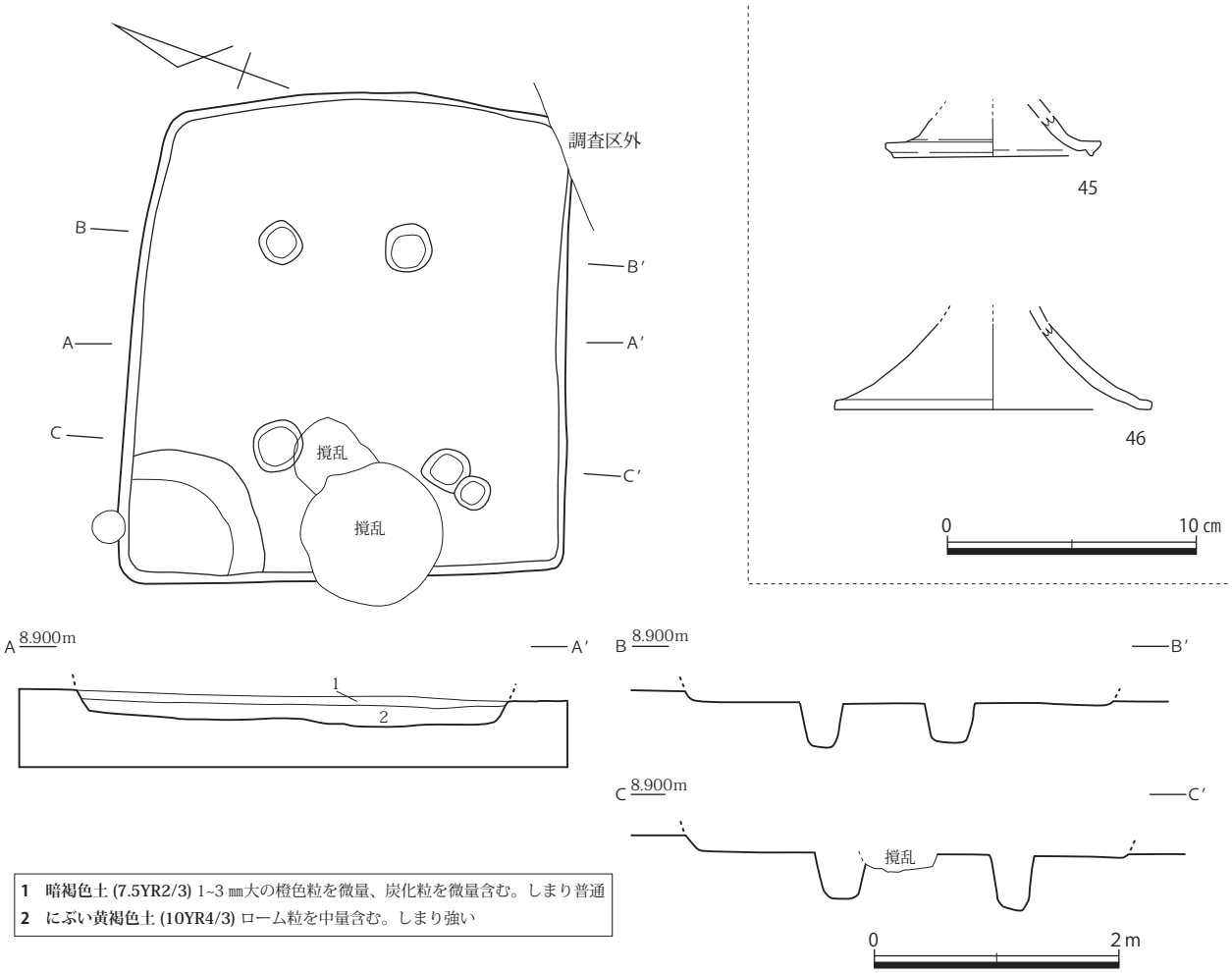


第 11 図　4 号住居跡（S ＝ 1/60）及び出土遺物（S ＝ 1/3）

4 号住居跡（第 11 図）

調査区中央部で検出された竪穴住居跡である。住居規模は、南側 1/2 が大溝と 1 号不明遺構に切られているが、直径が約 6.2 m前後、深さ 15㎝の円形を呈する。主柱穴は 2 つ検出されているが、4 本主柱であると考えられる。1.2 層が埋土で 3 層が貼り床である。時期は出土遺物から弥生時代後期初頭と考えられる。

出土遺物（第 11 図） **42** ～ **44** は弥生土器。**42** は甕。口径 8.6㎝、残存高 3.0㎝。内外面共に摩滅が激しいが、一部にハケ目が残る。また外面頸部に一部丹塗りが残る。**43** は甕。口径不明、残存高 2.1㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**44** は甕の口縁部。残存高 2.3㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。

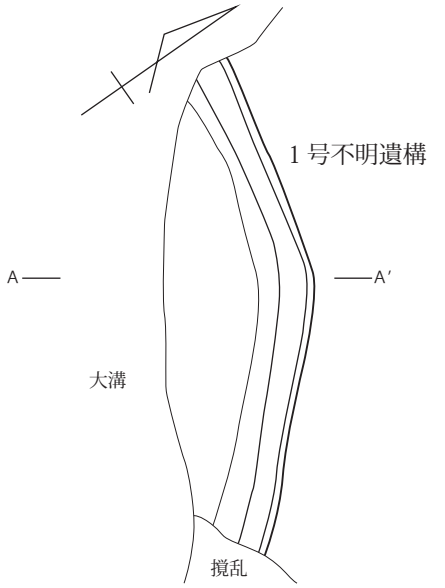


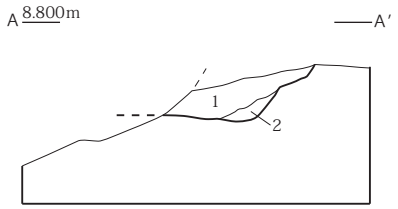
第 12 図　5 号住居跡（S ＝ 1/60）及び出土遺物（S ＝ 1/3）

5 号住居跡（第 12 図）

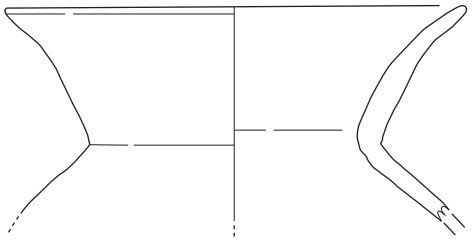
調査区東側で検出された 4 本主柱の竪穴住居跡である。。住居規模は、南東隅が調査区外になり、一部を撹乱に切られているが、3.7 m× 3.5 mの方形を呈する。遺構上部は後世の掘削により削られており、正確な深さはわからないが、現状約 10㎝程が残る。1 層が埋土で 2 層が貼り床である。時期は出土遺物から飛鳥時代前半から中頃と考えられる。

出土遺物（第 12 図）　**45** は須恵器の高坏脚裾部。裾径 8.0㎝、残存高 1.6㎝。内外面共に回転ナデ。**46** は土師器の高坏脚裾部。裾径 12.8㎝。残存高 3.4㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。

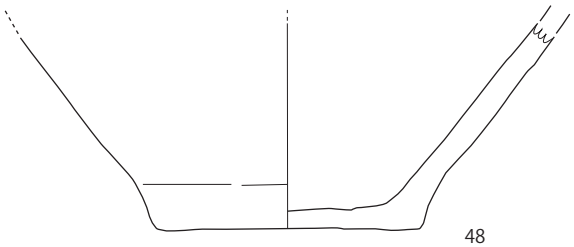




1 **黒褐色土 (10YR2/2)** 1~3 ㎜大の橙色粒を少量含む。しまり普通
2 **暗褐色土 (10YR3/3)** ローム粒を中量含む。しまり普通

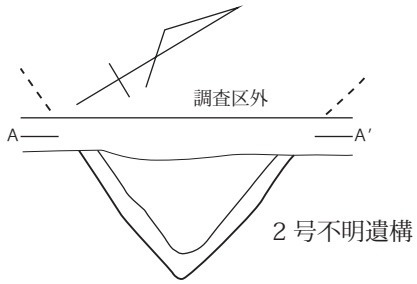


47

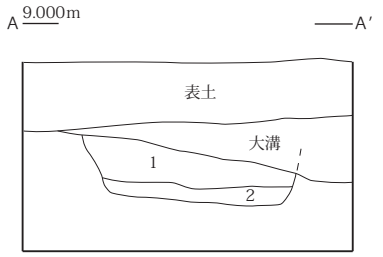


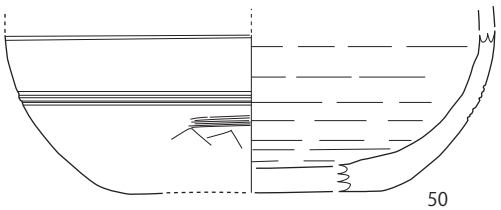
48

49



1 **褐色土 (7.5YR4/3)** 1~3 ㎜大の橙色粒を少量、炭化粒を微量含む。しまり普通
2 **にぶい黄褐色土 (10YR4/3)** ローム粒を中量含む。しまり強い





50

第 13 図　1 号 2 号不明遺構（S ＝ 1/60）及び出土遺物（S ＝ 1/3）

3) 不明遺構

1 号不明遺構（第 13 図）

調査区中央部で検出された遺構である。南西側大部分を大溝に切られており調査時は不明遺構としたが竪穴住居跡の一部と考えられる。住居規模は不明だが円形と推測される。深さは約 45㎝。時期は出土遺物 **48・49** から弥生時代後期初頭と考えられる。

出土遺物（第 13 図） **47** は土師器の壺。口径 18.0㎝、残存高 8.4㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。後世の流れ込み遺物。**48** は弥生土器の甕の底部。底径 10.5㎝、残存高 8.0㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**49** は弥生土器の甕の底部。底径 8.0㎝、残存高 2.5㎝。内面は指押さえの後ナデ。外面はハケ。底部はナデ。

2 号不明遺構（第 13 図）

調査区西側で検出された遺構である。西側大部分が調査区外となっており調査時は不明遺構としたが竪穴住居跡の隅と考えられる。住居規模は不明、深さは約 50㎝。時期は出土遺物から飛鳥時代前半と考えられる。

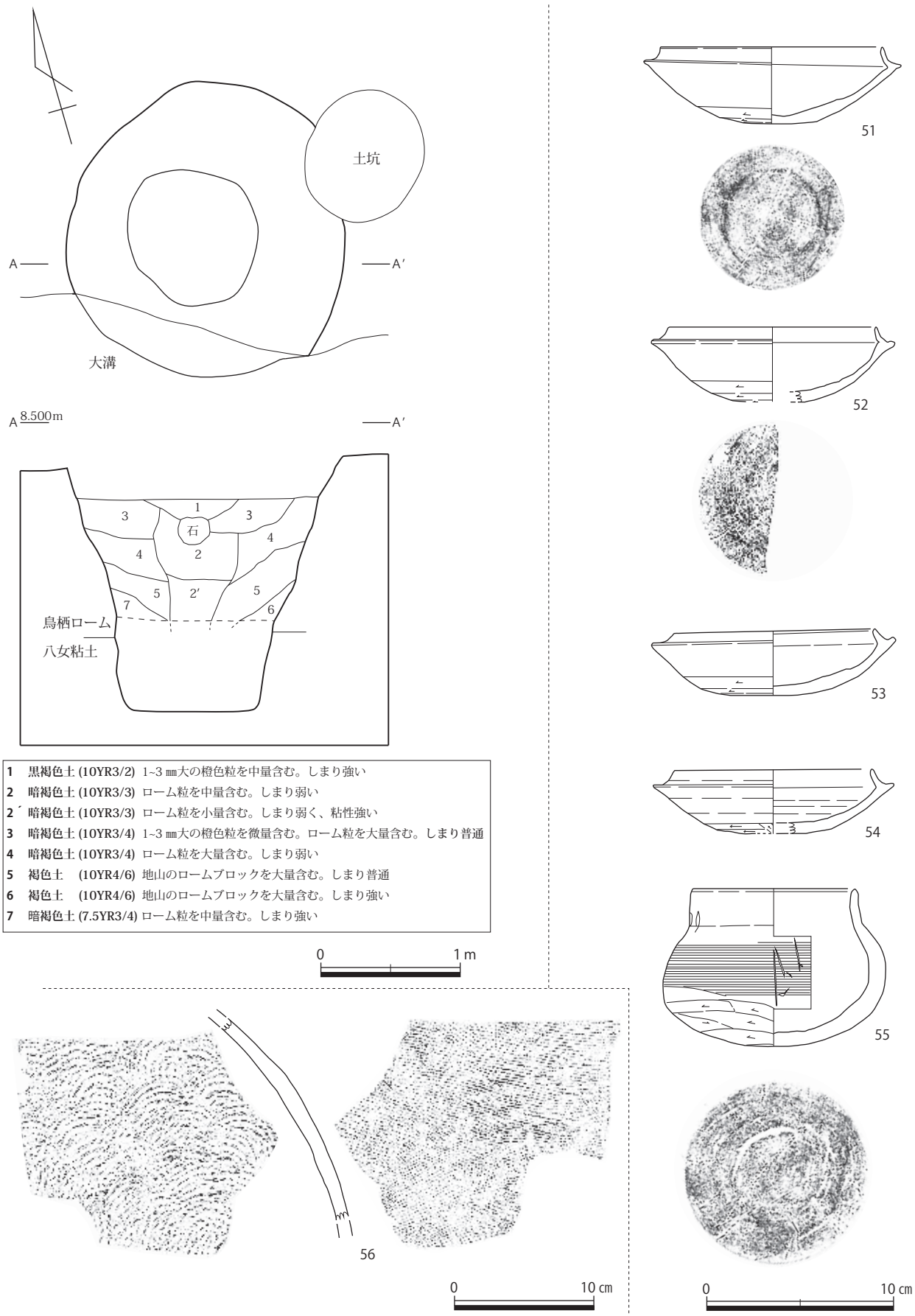
出土遺物（第 13 図） **50** は須恵器の壺。残存高 6.2㎝。内面は回転ナデ、外面はハケ。底部はナデ。

4) 井戸

1 号井戸（第 14 図）

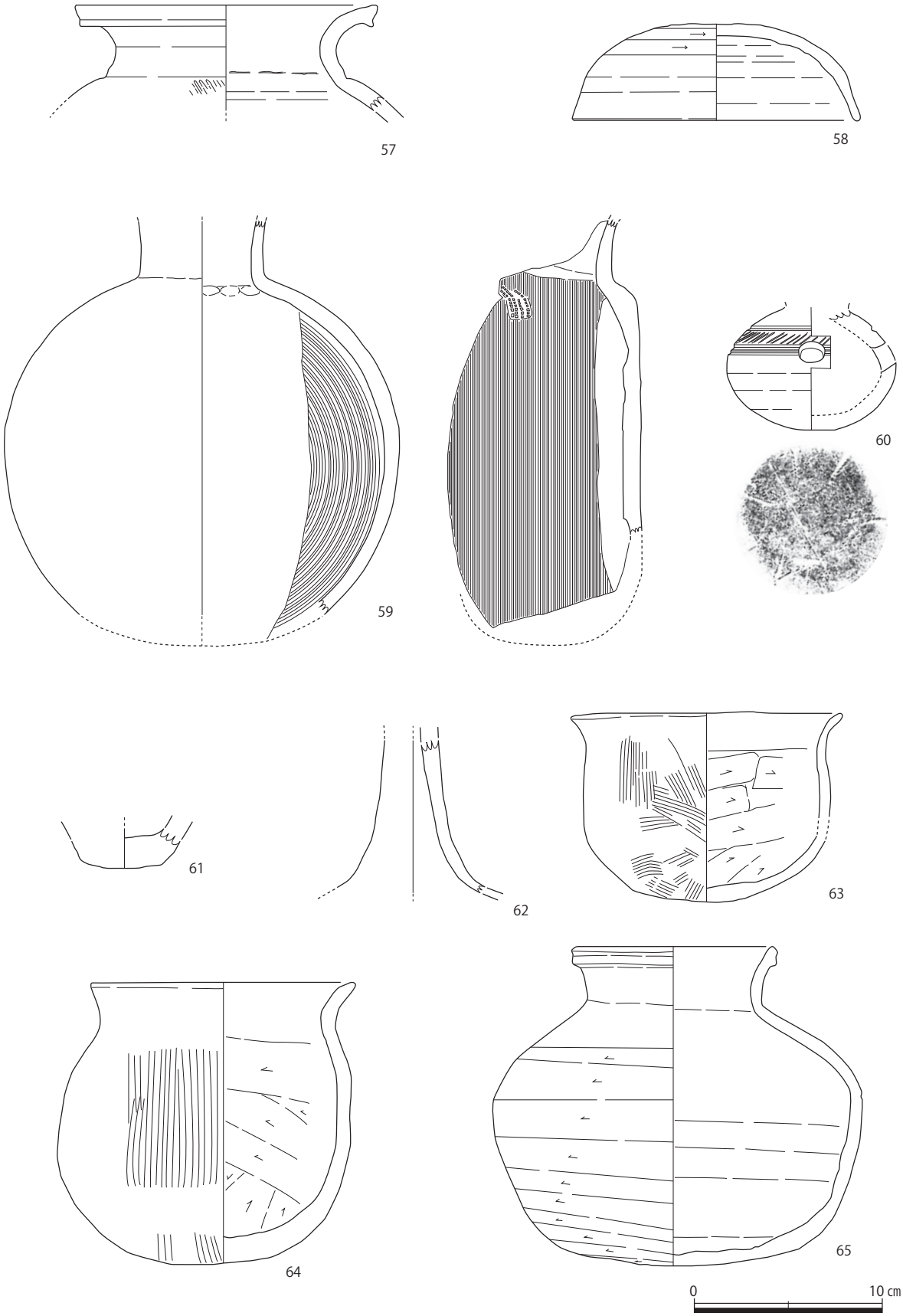
調査区中央部で検出された井戸である。南側の一部を大溝に、東側を 2 号土坑に切られているが、規模は 2 m× 2m の円形状で、深さは検出面より 1.8 m。水の湧水点は鳥栖ロームと八女粘土の境がる標高 7.0 m地点と思われる。検出面より一段下げをした段階で、遺物 **55・59・60** が出土している。遺物 **65** は井戸最下層で検出されている。井戸枠等の明確な痕跡は確認されなかったが、2 層・2´層が井戸枠内堆積の土で、4 ～ 7 層が掘方の土である。時期は出土遺物から飛鳥時代前半から中頃と考えられる。

出土遺物（第 14・15・16 図） **51** ～ **60** は須恵器。**51** は坏。完形だが口縁に歪みがあり楕円形状となる。口径 11.9㎝、受部径 13.8㎝、器高 4.1㎝。内面はヨコナデ。外面はヨコナデ、底部は回転ヘラケズリ。外底に線刻あり。**52** は坏。口径 11.0㎝、受部径 13.0㎝、残存高 4.0㎝。内面はヨコナデ。外面はヨコナデ、底部は回転ヘラケズリ。外底に線刻あり。**53** は坏。口径 10.8㎝、受部径 13.1㎝、器高 3.5㎝。内面は口縁部から底部にかけてヨコナデ、内底部はナデ。外面は口縁部から底部にかけてヨコナデ、外底部は回転ケズリ。**54** は坏。口径 10.6㎝、受部径 12.8㎝、残存高 3.4㎝。内面は口縁部から底部にかけて回転ナデ。外面は口縁部から底部にかけて回転ナデ、外底部は回転ケズリ。**55** は壺。口径 8.8㎝、器高 8.5㎝。内面はヨコナデ。外面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ後カキ目。胴部から底部にかけてはヘラケズリ。口縁部下・胴部・外底に線刻あり。**56** は甕。残存高 14.2㎝。内面は同心円状の当て具によるタタキ。外面はタタキ。**57** は壺。口径 16.0㎝、残存高 5.6㎝。内面は口縁部から頸部にかけて回転ナデ、粘土の継ぎ目が残る。外面は口縁部から頸部にか

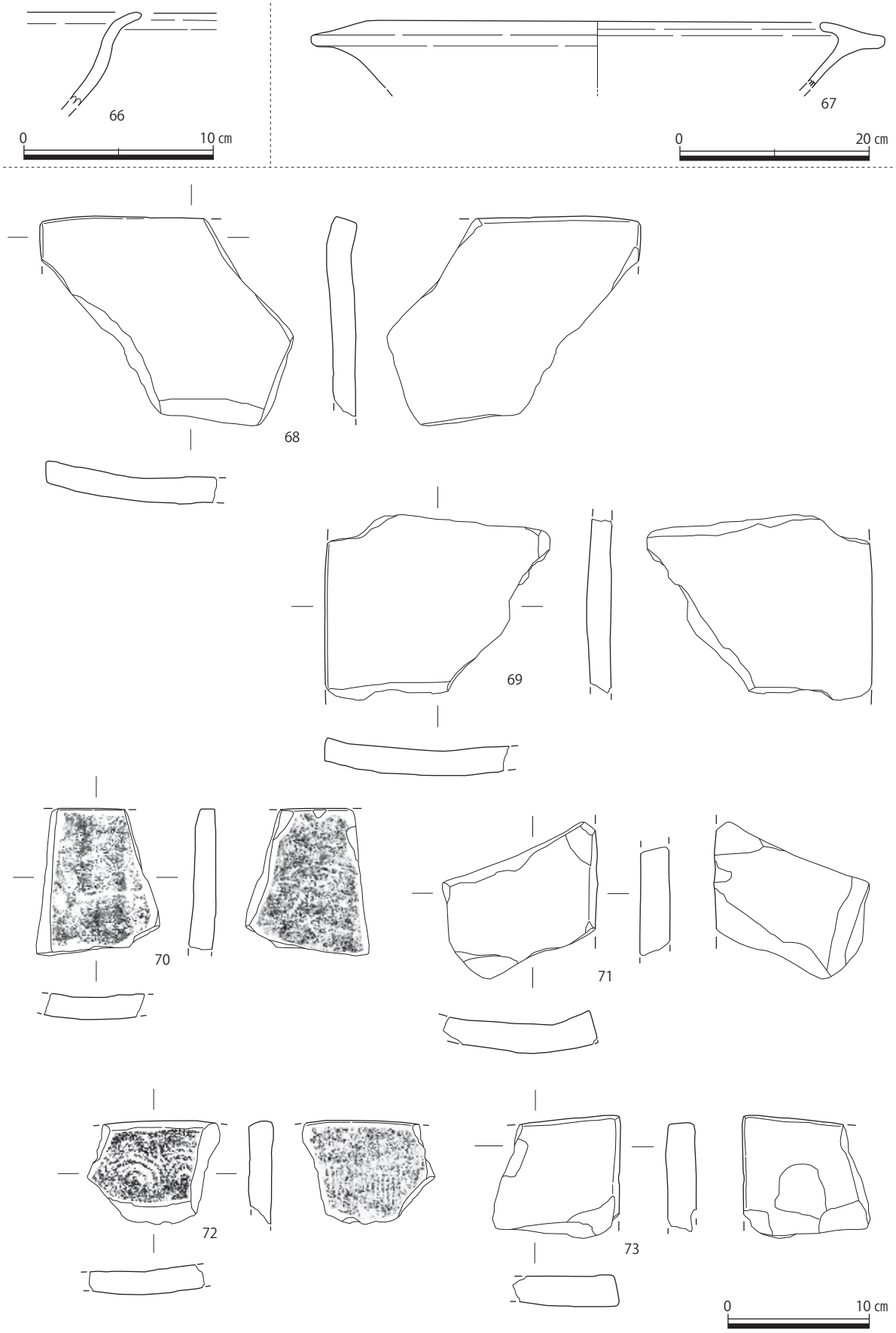


1	黒褐色土 (10YR3/2)	1~3 ㎜大の橙色粒を中量含む。しまり強い
2	暗褐色土 (10YR3/3)	ローム粒を中量含む。しまり弱い
2′	暗褐色土 (10YR3/3)	ローム粒を小量含む。しまり弱く、粘性強い
3	暗褐色土 (10YR3/4)	1~3 ㎜大の橙色粒を微量含む。ローム粒を大量含む。しまり普通
4	暗褐色土 (10YR3/4)	ローム粒を大量含む。しまり弱い
5	褐色土 (10YR4/6)	地山のロームブロックを大量含む。しまり普通
6	褐色土 (10YR4/6)	地山のロームブロックを大量含む。しまり強い
7	暗褐色土 (7.5YR3/4)	ローム粒を中量含む。しまり強い

第 14 図　1 号井戸（S ＝ 1/40）及び出土遺物（S ＝ 1/3•1/4）



第 15 図　1 号井戸出土遺物　（S ＝ 1/3）



第 16 図　1 号井戸出土遺物　（S ＝ 1/3•1/6•1/4）

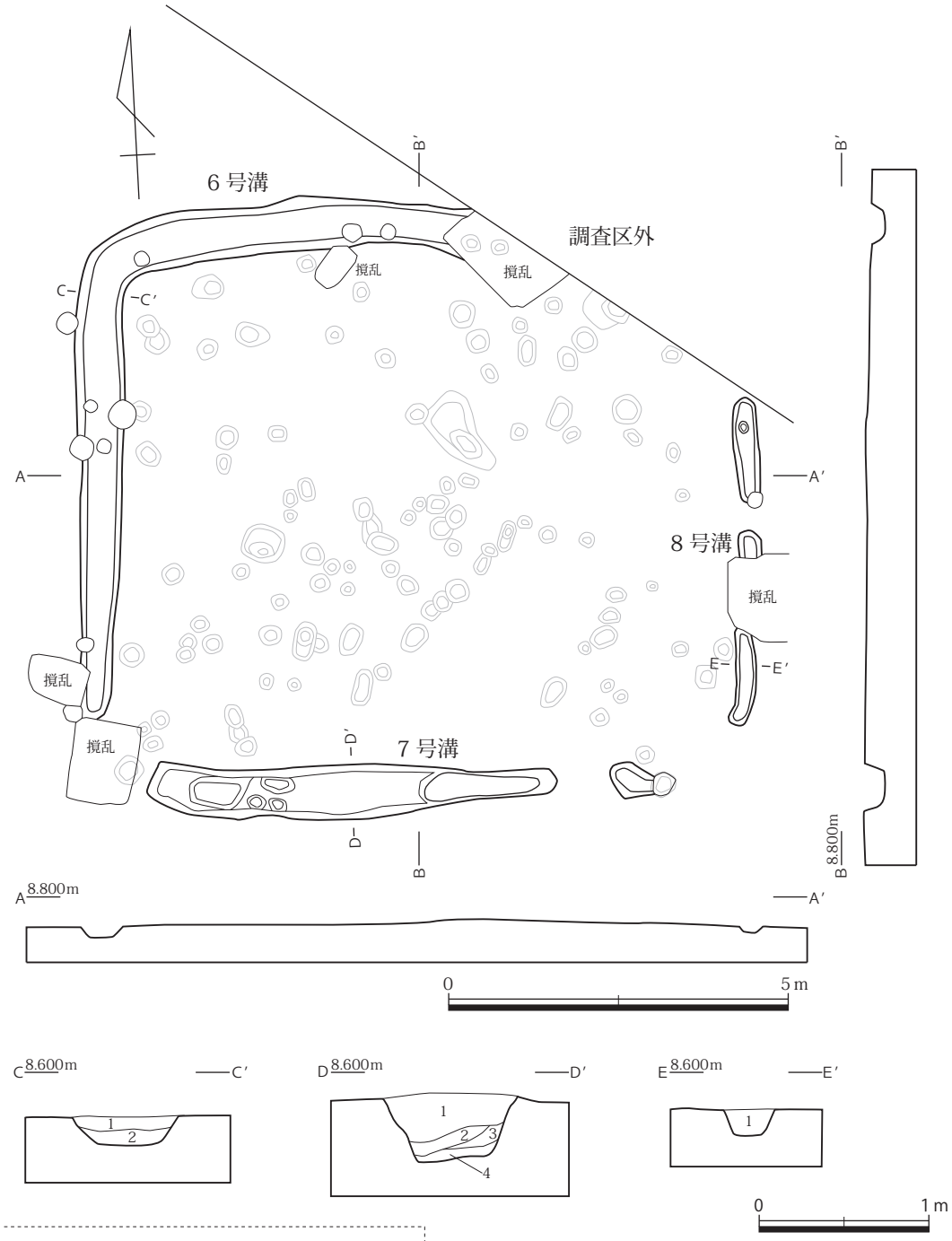
けて回転ナデ、胴部はタタキ。**58** は、坏蓋。口径 15.0㎝、器高 5.1㎝。内面は回転ナデ、天井部はナデ。外面は回転ナデ、天井部は回転ヘラケズリ。**59** は提瓶。残存高 20.8㎝。内面は頸部にかけて指押さえの後ヨコナデ、胴部はナデ後ヨコナデ。外表面は頸部にかけてヨコナデ。胴部は同心円状のカキ目、一部に格子状のタタキ痕あり。外裏面はナデ後回転ケズリ。**60** は瑤（ハソウ）。残存高 6.5㎝。穿孔は直径 1.0㎝。内面は調整不明。外面はヨコナデ後斜刻み、底部には線刻あり。**61** ～ **65** は土師器。**61** は甕の底部。底径 4.6㎝、残存高 2.0㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**62** は高坏の脚部。残存高 8.0㎝。内面はナデ。外面は摩滅が激しく調整不明だが、一部にヨコナデが残る。**63** は鉢。口径 12.2㎝、器高 10.0㎝。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけては板状工具によるケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけてはハケ目。**64** は壺。口径 14.0㎝、器高 15.0㎝。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけては板状工具によるケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけてはハケ目。**65** は壺（赤焼土器）。口径 10.5㎝、器高 17.0㎝。内面は口縁部から底部にかけてヨコナデ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ。**66**、**67** は弥生土器。**66** は壺の口縁部。残存高 6.5㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**67** は甕の口縁部。口径 60.6㎝、残存高 7.0㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**68** ～ **73** は初期瓦。**68** は長さ 14.0㎝、幅 18.0㎝、厚さ 1.8㎝。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。**69** は長さ 13.1㎝、幅 16.0㎝、厚さ 1.7㎝。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。**70** は長さ 10.5㎝、幅 8.8㎝、厚さ 1.5㎝。凹面凸面共に布目が残る。**71** は長さ 11.2㎝、幅 11.0㎝、厚さ 2.1㎝。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。**72** は長さ 7.4㎝、幅 9.6㎝、厚さ 1.7㎝。凹面には同心円状の当て具によるタタキ。凸面は竹状の当て具によるタタキ。**73** は長さ 8.7㎝、幅 9.0㎝、厚さ 2.3㎝。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。

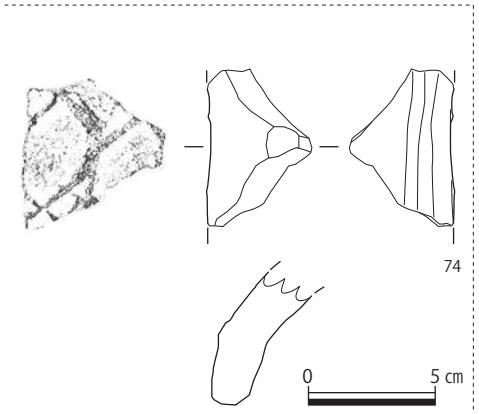
5) 溝状遺構

方形周溝状遺構（第 17 図）

調査区北側で検出された方形周溝状の遺構である。規模は溝の内径で 9.0 m× 7.7 mの長方形型を呈する。また溝も含めると 10.0 m× 9.1 mである。溝の深さは、深い所で約 40㎝、浅い所で約 18㎝程度である。方形状の区画内にはピットも多数見受けられるが、掘立柱建物を形成するピット列は確認できず、用途は不明であるが、南北軸に沿って作られている。方形周溝状遺構の西側で検出された溝で構成される区画溝と対応する遺構であるとも考えられる。溝から出土した遺物は少ないが、時期は出土遺物から飛鳥時代中頃と考えられる。

出土遺物（第 17・18 図） **74** は丸瓦片。長さ 6.2㎝、幅 5.3㎝、厚さ 1.9㎝。凹面は、摩滅が激しく調整不明だが、布目か。凸面には格子目のタタキが残る。時代は奈良時代以降、後世の流れ込みの遺物。**75** ～ **77** は須恵器。**75** は鉢。口径 16.0㎝、残存高 3.5㎝。内外面共にヨコナデ。**76** は甕。口径 19.4㎝、残存高 6.6㎝。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は同心円状の当て具によるタタキ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部はタタキ。**77** は甕。残存高 11.4㎝。内面は頸部にかけてヨコナデ、胴部は同心円状の当て具によるタタキ。外面は頸部にかけてヨコナデ後二条の沈線。胴部は縦方向の平行タタキ。**78** は砥石。最大長 13.1㎝、最大幅 7.4㎝、厚さ 3.9㎝。銅戈などの鋳型を砥石として再利用した可能性あり。石材は砂岩。**79** は磨り石。最大長 12.8㎝、最大幅 9.5㎝、厚さ 6.5㎝。全面に磨りの痕跡あり。石材は細粒凝灰岩か。



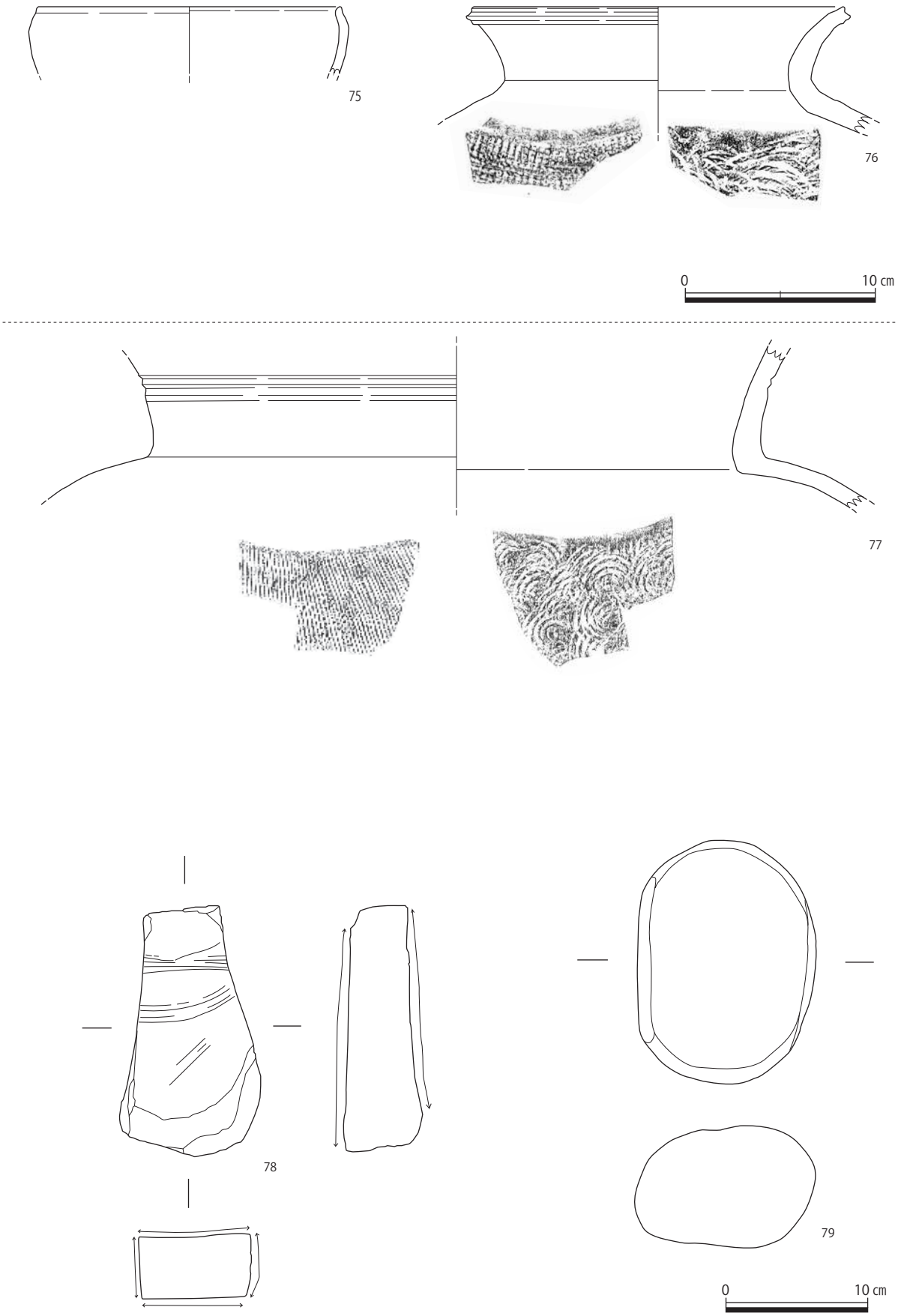


C-C′
1 暗褐色土 (10YR3/3) 1~3 ㎜大の橙色粒を微量、ローム粒を少量含む。しまり普通
2 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) 1~3 ㎜大の橙色粒を微量、ローム粒を中量含む。しまり普通

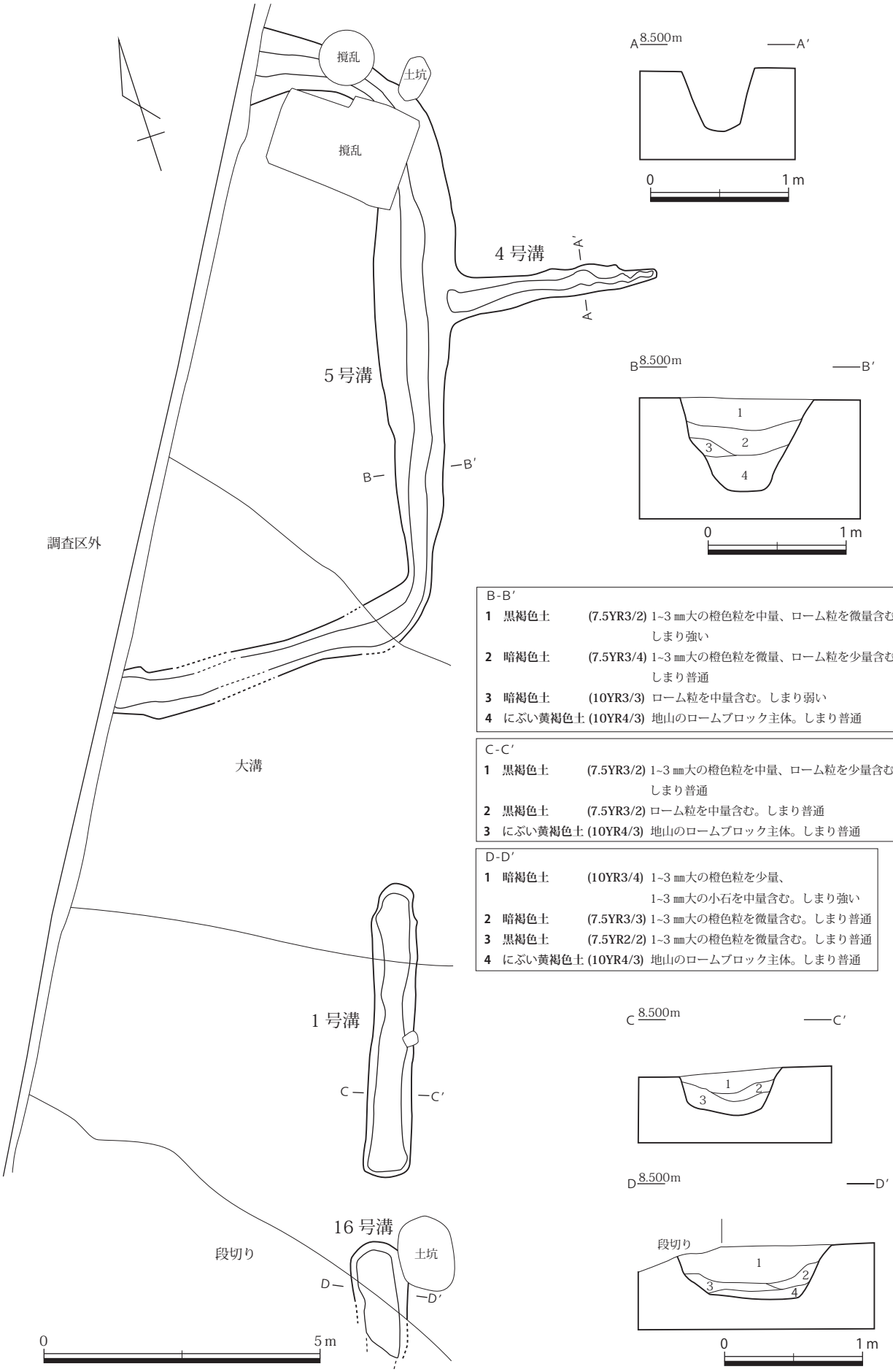
D-D′
1 黒褐色土 (7.5YR3/1) 1~3 ㎜大の橙色粒を少量、炭化粒を微量含む。しまり強い
2 暗褐色土 (10YR3/3) ローム粒を少量含む。しまり普通
3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3) ローム粒を中量含む。しまり普通
4 黄褐色土 (10YR5/6) 地山のロームブロック主体。しまり普通

E-E′
1 灰褐色土 (7.5YR4/2) 1~3 ㎜大の橙色粒を微量、ローム粒を少量含む。しまり弱い

第 17 図　方形周溝状遺構 （S ＝ 1/100•1/40）及び出土遺物（S ＝ 1/3）



第 18 図　方形周溝状遺構出土遺物　（S ＝ 1/3•1/4）



B-B′

1	**黒褐色土**	**(7.5YR3/2)**	1~3 ㎜大の橙色粒を中量、ローム粒を微量含む。しまり強い
2	**暗褐色土**	**(7.5YR3/4)**	1~3 ㎜大の橙色粒を微量、ローム粒を少量含む。しまり普通
3	**暗褐色土**	**(10YR3/3)**	ローム粒を中量含む。しまり弱い
4	**にぶい黄褐色土**	**(10YR4/3)**	地山のロームブロック主体。しまり普通

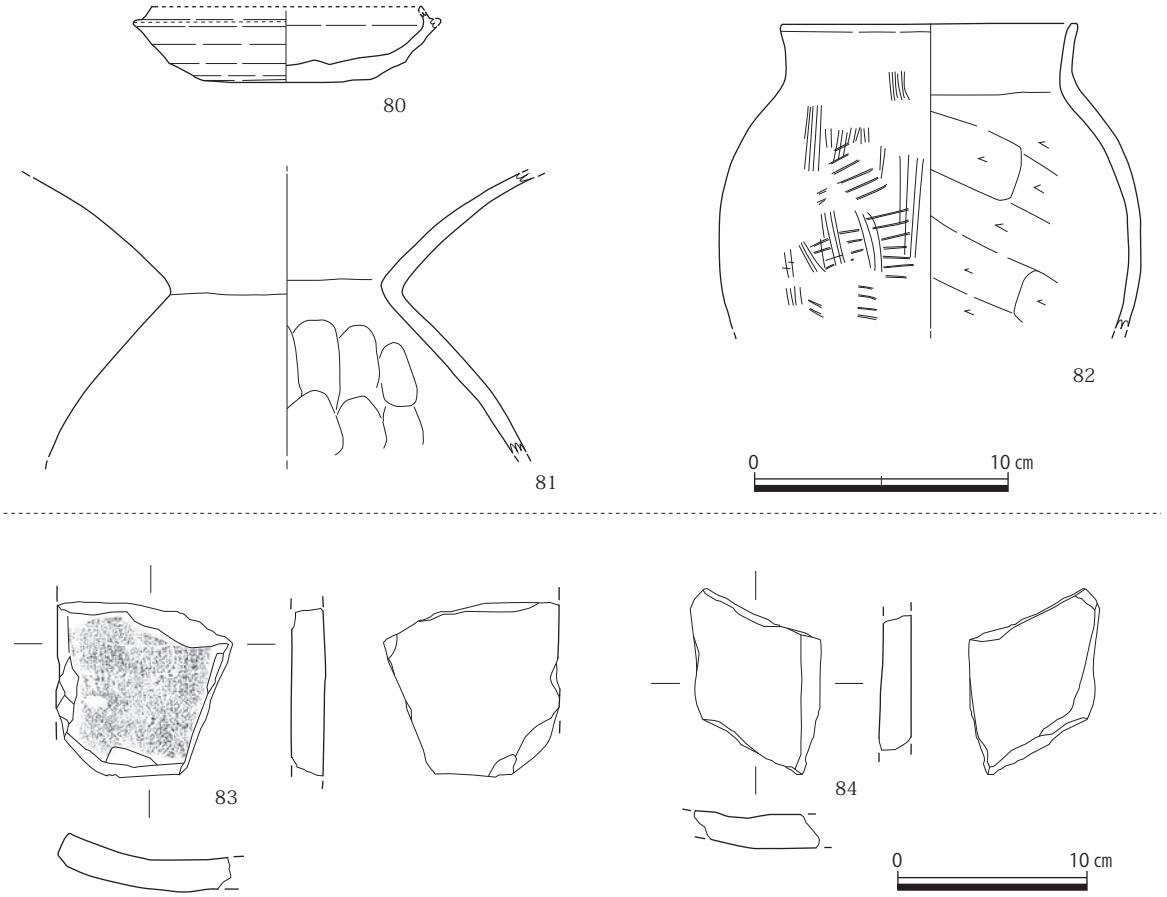
C-C′

1	**黒褐色土**	**(7.5YR3/2)**	1~3 ㎜大の橙色粒を中量、ローム粒を少量含む。しまり普通
2	**黒褐色土**	**(7.5YR3/2)**	ローム粒を中量含む。しまり普通
3	**にぶい黄褐色土**	**(10YR4/3)**	地山のロームブロック主体。しまり普通

D-D′

1	**暗褐色土**	**(10YR3/4)**	1~3 ㎜大の橙色粒を少量、1~3 ㎜大の小石を中量含む。しまり強い
2	**暗褐色土**	**(7.5YR3/3)**	1~3 ㎜大の橙色粒を微量含む。しまり普通
3	**黒褐色土**	**(7.5YR2/2)**	1~3 ㎜大の橙色粒を微量含む。しまり普通
4	**にぶい黄褐色土**	**(10YR4/3)**	地山のロームブロック主体。しまり普通

第 19 図　区画溝（S ＝ 1/100•1/40）

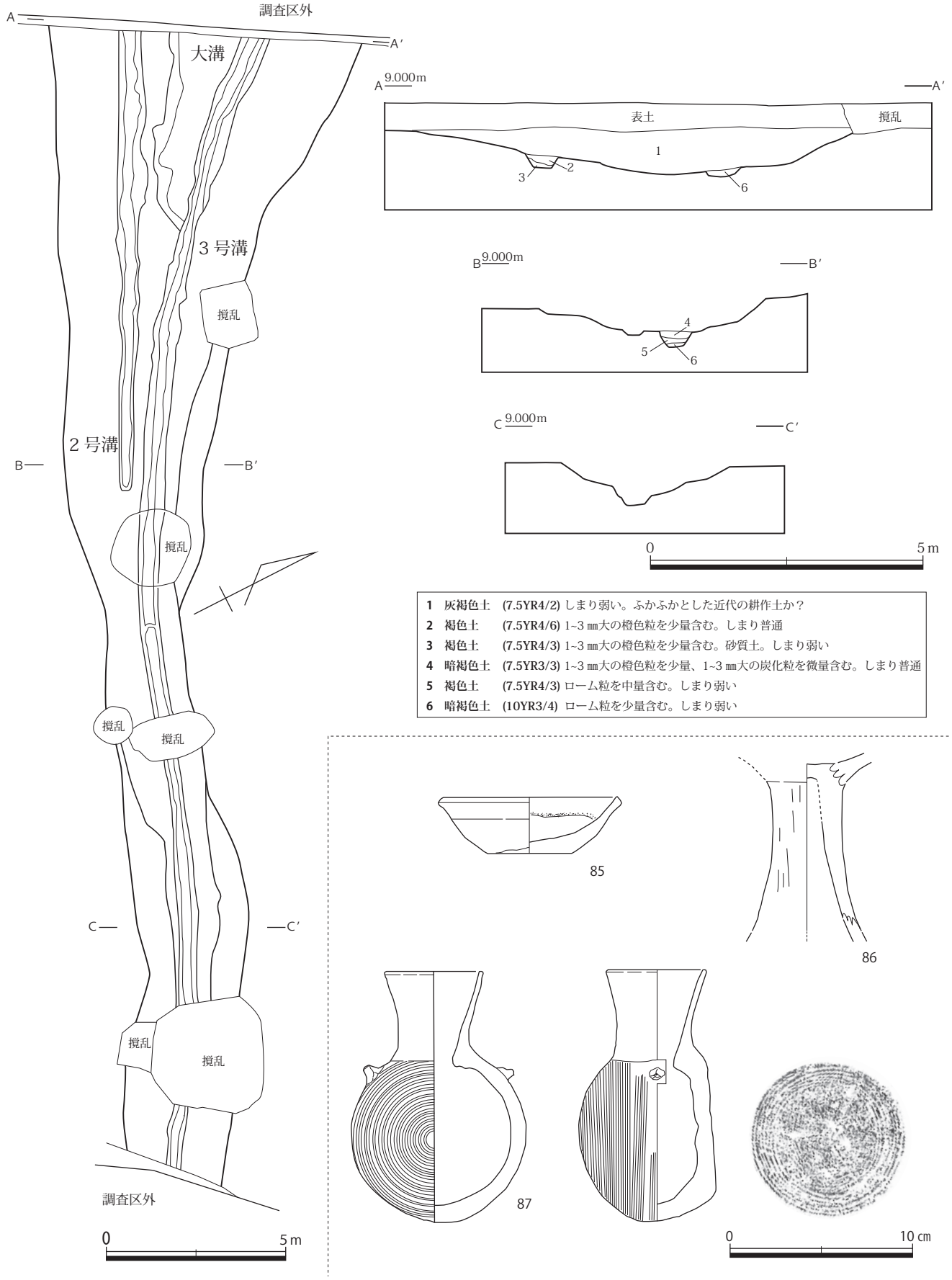


第 20 図　区画溝出土遺物　（S ＝ 1/3•1/4）

区画溝（第 19 図）

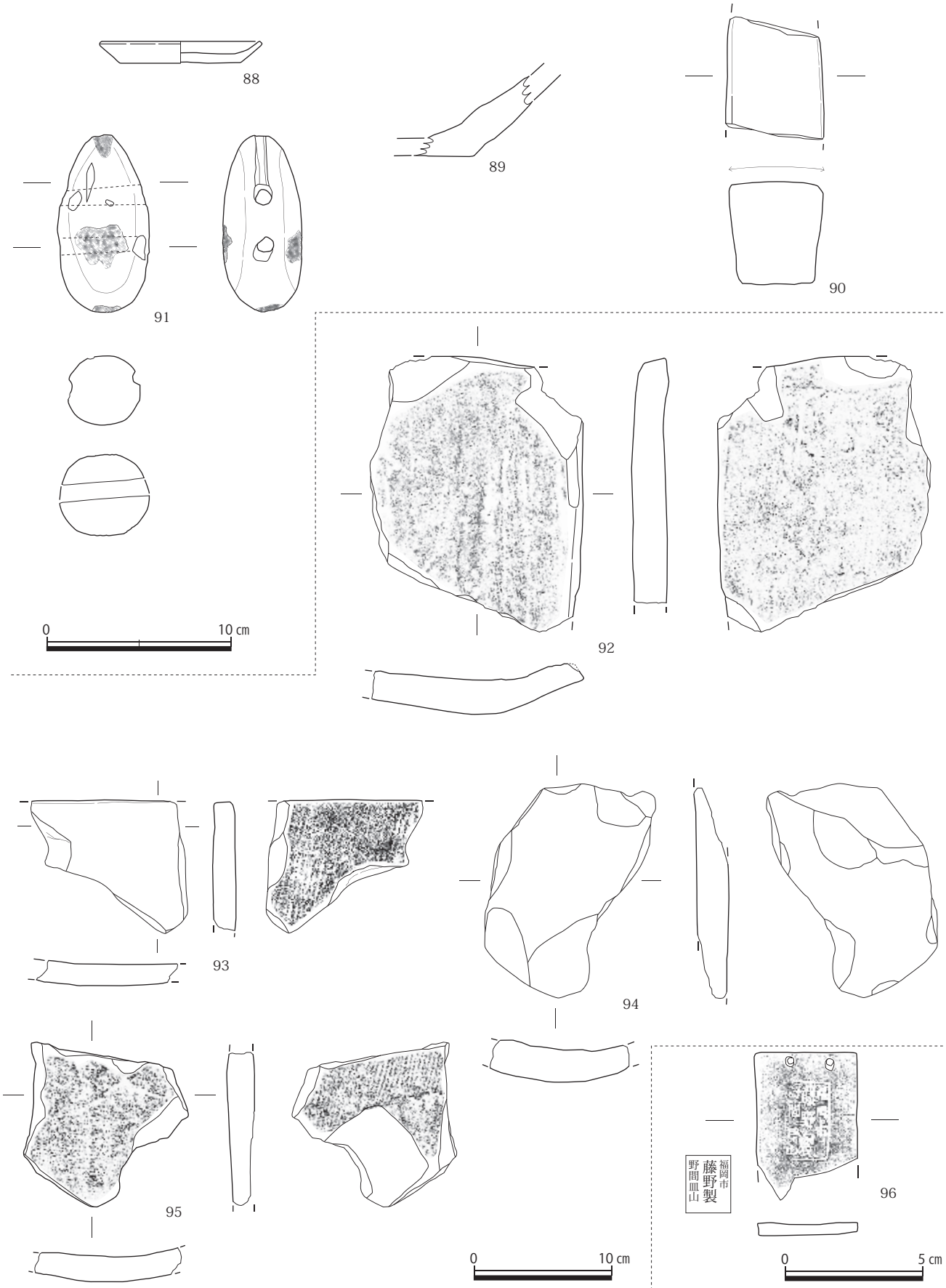
調査区西側で検出された 1 号溝、4 号溝、5 号溝、16 号溝からなる溝状遺構である。1 号溝は大溝に、16 号溝は段切りで切られており、また 5 号溝も東側は調査区外となり、全体像はつかみにくいが区画を仕切るために作られた溝だと考えられる。溝の断面形は 4 号溝 5 号溝は逆台形状で深さは 45㎝～ 68㎝をはかる。1 号溝 16 号溝は検出面が 4 号溝 5 号溝より 20㎝ほど低くなっており遺構上部が削平されている可能性もあるが、深さは 30㎝～ 38㎝をはかる。時期は出土遺物から飛鳥時代中頃と考えられる。

出土遺物（第 20 図）　**80** は須恵器の坏。口径 10.7㎝、受部径 12.2㎝、器高 3.0㎝。内面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、底部はナデ。外面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、底部はナデ後ヘラ切り。**81** は土師器の壺。残存高 10.0㎝。内面は口縁部から頸部にかけては摩滅が激しく調整不明、胴部には指圧痕が残る。外面は摩滅が激しく調整不明だが一部にヨコナデが残る。**82** は土師器の壺。口径 11.6㎝、残存高 12.1㎝。内面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部はヘラケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は平行タタキ後ハケ目。**83** は初期瓦。長さ 9.3㎝、幅 9.3㎝、厚さ 1.8㎝。凹面には布目が残るが、凸面は摩滅が激しく調整不明。**84** は初期瓦。長さ 9.8㎝、幅 7.0㎝、厚さ 1.8㎝。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。



1	灰褐色土	(7.5YR4/2)	しまり弱い。ふかふかとした近代の耕作土か？
2	褐色土	(7.5YR4/6)	1~3 ㎜大の橙色粒を少量含む。しまり普通
3	褐色土	(7.5YR4/3)	1~3 ㎜大の橙色粒を少量含む。砂質土。しまり弱い
4	暗褐色土	(7.5YR3/3)	1~3 ㎜大の橙色粒を少量、1~3 ㎜大の炭化粒を微量含む。しまり普通
5	褐色土	(7.5YR4/3)	ローム粒を中量含む。しまり弱い
6	暗褐色土	(10YR3/4)	ローム粒を少量含む。しまり弱い

第 21 図　大溝２号３号溝（S ＝ 1/150•1/100）及び出土遺物　（S ＝ 1/3）



第 22 図　大溝 2 号 3 号溝出土遺物（S ＝ 1/3•1/4•1/2）

大溝２号３号溝（第 21 図）

調査区を北西から北東に横切るように検出された溝状遺構である。長さは 31.0 m、幅は広いところで 8.5 m狭いところで 2.2 mをはかる。２号溝３号溝の上面を切る形で大溝が掘られているが、大溝の埋土はしまりの弱い灰褐色土であり、遺物量も少なく埋土上層からは遺物 **96** が検出されている事からも近代に整地のために一気に埋められた溝であり、また２号溝３号溝からは図化しえなかった須恵器、土師器、陶磁器類も多数出土している事から、飛鳥時代から繰り返し、作り替えられて来た溝であると考えられる。

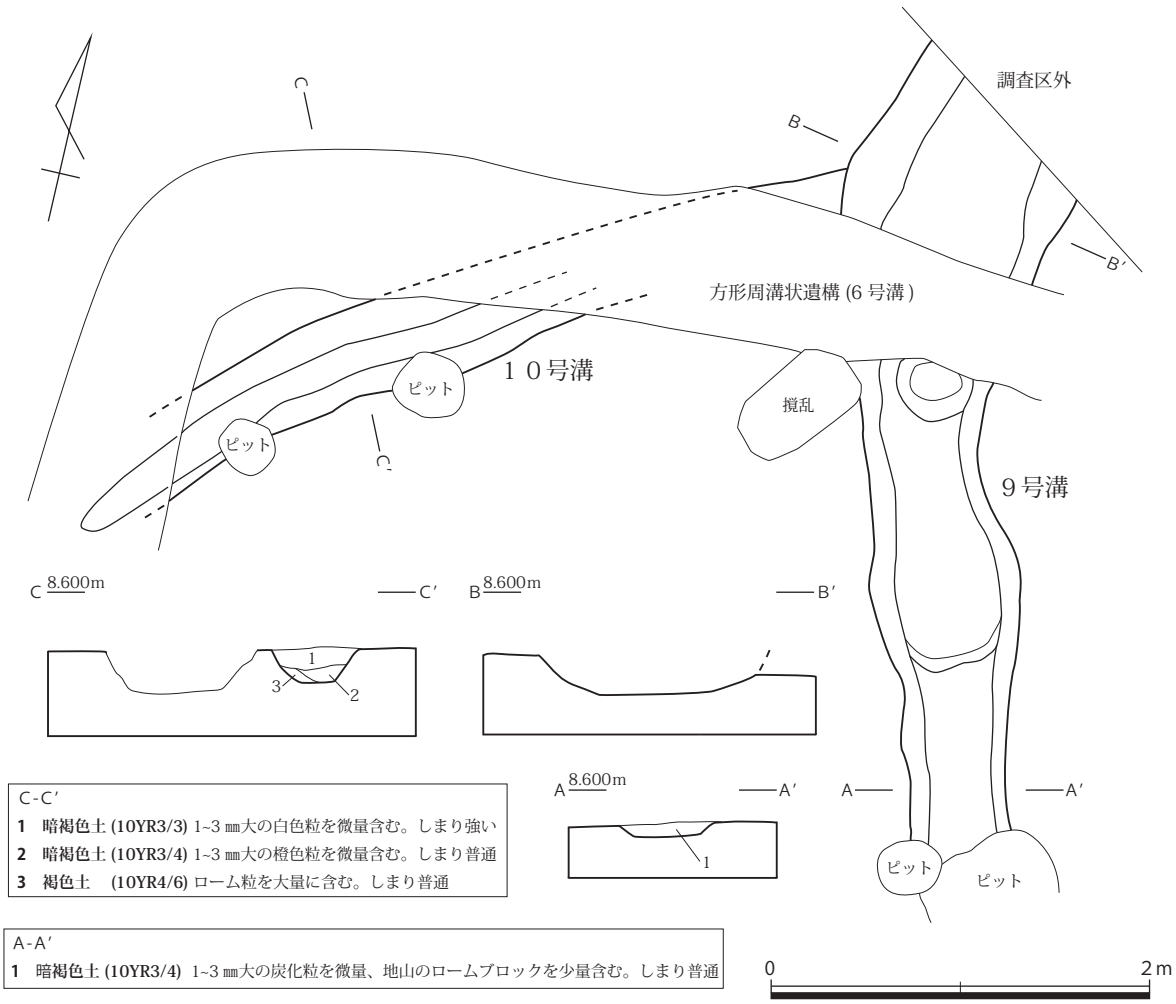
出土遺物（第 21・22 図） **92** は２号溝から出土の初期瓦。長さ 20.0㎝、幅 15.5㎝、厚さ 2.5㎝。凹面凸面に布目が残る。**85** ～ **88**、**91**、**94** は３号溝から出土。**85** は白磁の皿、12 世紀中国製。口径 9.5㎝、器高 3.1㎝。釉は淡灰色、外底と外面胴部下部に露胎がみられる。**86** は土師器の高坏脚部。残存高 9.1㎝。脚部内面はナデ。外面は摩滅が激しいが一部ミガキが残る。**87** は須恵器の提瓶。口径 5.4㎝、器高 13.7㎝。内面はヨコナデ。外表面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は同心円状のカキ目。外裏面は中心部はナデ、外円部にはカキ目痕あり。**88** は土師器の皿。口径 8.6㎝、底径 6.6㎝、器高 1.2㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。外底部はヘラ切り、板状圧痕あり。口縁部内外面に淡灰黒色を帯びる箇所があり、灯明皿としての使用の可能性あり。**91** は石錘。長さ 9.6㎝、幅 4.9㎝、厚さ 4.3㎝。石材は砂岩。穿孔は上下２ヶ所にあり径は約 0.8㎝。一条の溝が穿孔から頭頂部を通り裏側の穿孔まで施されている。石錘全体は研磨されており打痕も認められる。**94** は初期瓦。長さ 15.5㎝、幅 12.4㎝、厚さ 2.5㎝。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。**89**、**90**、**93**、**95**、**96** は大溝から出土。**89** は弥生土器。甕の底部。残存高 4.3㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明。**90** は砥石。長さ 6.7㎝、幅 5.4㎝、厚さ 5.6㎝。鋳型の石材を再利用か。石材は砂岩。**93** は初期瓦。長さ 9.7㎝、幅 11.5㎝、厚さ 1.7㎝。凹面は摩滅が激しく調整不明。凸面は竹状の当て具によるタタキ。**95** は初期瓦。長さ 11.9㎝、幅 12.0㎝、厚さ 2.0㎝。凹面は摩滅が激しいが一部に布目が残る。凸面は竹状の当て具によるタタキ。**96** は陶器製の荷札。長さ 5.4㎝、幅 3.8㎝、厚さ 0.4㎝。表面に「福岡市　野間皿山　藤野製」の刻印があり、陶磁器の出荷時に付けていたものと思われる。

９号溝（第 23 図）

調査区の北側で検出された溝状遺構である。時期は方形周溝状遺構に切られていることから、飛鳥時代前半から中頃と推測される。南側はピットに切られ、一部を方形周溝状遺構に切られる。北側は調査区外に伸びている。長さは 4.0 m、幅は最大 1.1 mをはかる。深さは南側が浅く約 10㎝ほど、北側は遺構上部が削平を受けているが約 20㎝ほどで北側に向かて傾斜がついている。遺物は須恵器、土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。

10 号溝（第 23 図）

調査区の北側で検出された溝状遺構である。時期は方形周溝状遺構に切られていることから、飛鳥時代前半から中頃と推測される。大部分を方形周溝状遺構と９号溝に切られており、長さは 4.4 m、幅は最大 50㎝、深さは 20㎝をはかる。遺物は須恵器、土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。



第 23 図　9 号 10 号溝　（S ＝ 1/40）

11 号溝（第 24 図）

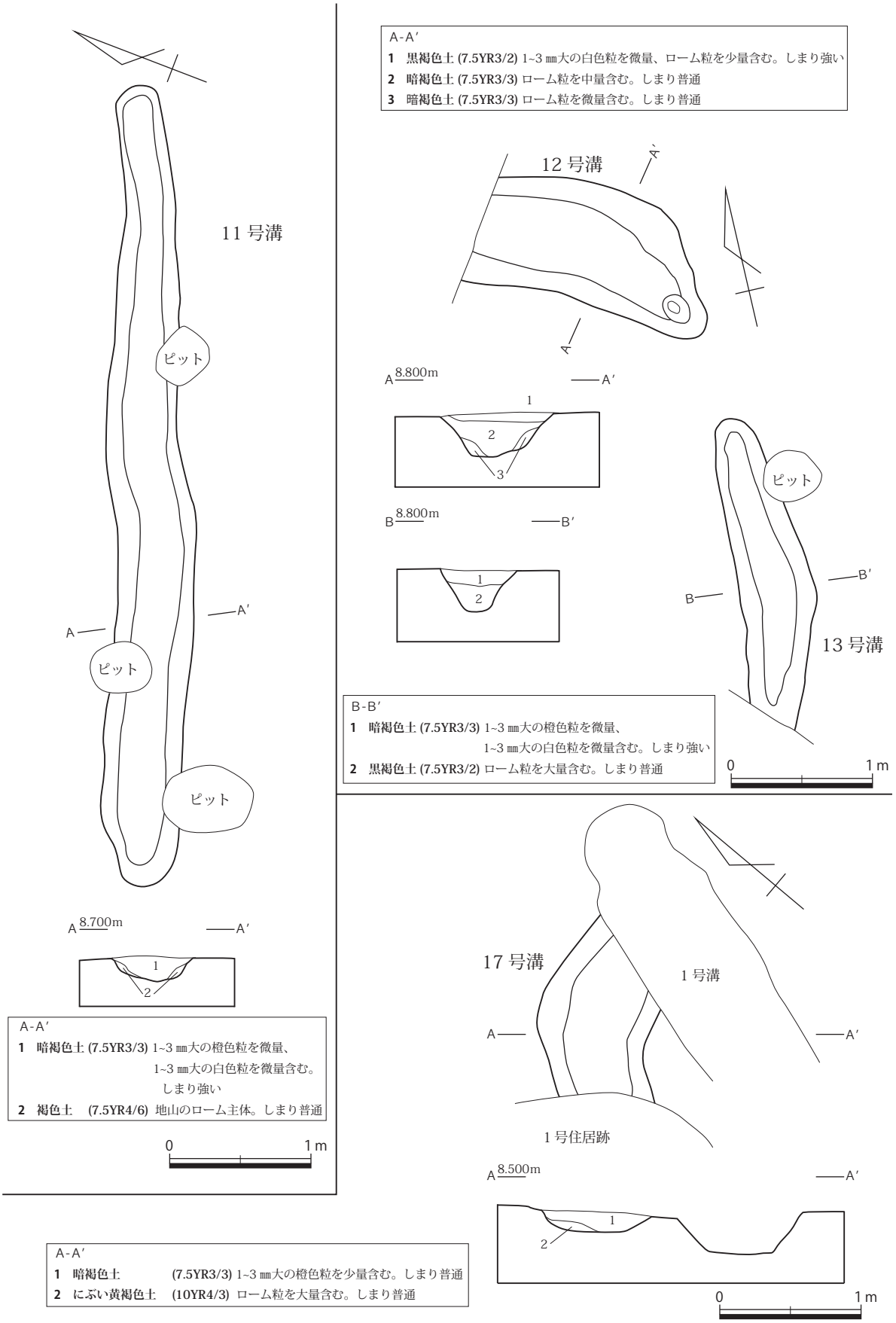
調査区の中央部で検出された溝状遺構である。長さは 5.6 m、最大幅は 55㎝、深さは 18㎝をはかる。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は飛鳥時代か。

12 号 13 号溝（第 24 図）

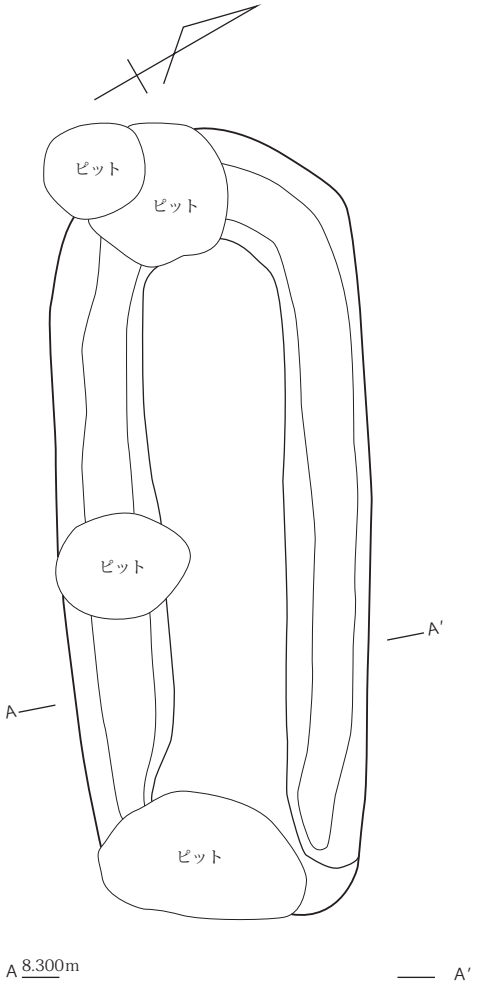
調査区の東側で検出された溝状遺構である。溝の断面形は、逆台形状で深さは約 30㎝をはかる。遺構の大部分を撹乱で切られており全体像は不明だが、6 号 7 号 8 号溝から成る方形周溝状遺構のように方位軸にそって作られたものである可能性もある。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は飛鳥時代か。

17 号溝（第 24 図）

調査区の西側で検出された溝状遺構である。1 号住居跡と 1 号溝に切られているが、溝としての全体像が見えず、検出時は溝としたが、実際は土坑であった可能性が高い。深さは 30㎝をはかる。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は飛鳥時代か。



第 24 図　11 号 12 号 13 号 17 号溝　（S ＝ 1/40）



1	灰褐色土	(7.5YR4/2)	1~3 ㎜大の橙色粒を微量、1~3 ㎜大の白色粒を微量含む。しまり普通
2	灰褐色土	(7.5YR4/2)	3~5 ㎜大の小石を大量含む。ガラス玉出土
3	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	ローム粒を少量含む。しまり普通

0　1 m

第 25 図　4 号土坑　（S ＝ 1/20）

6) 土坑

4 号土坑（第 25 図）

調査区北側で検出された土坑である。木棺墓、あるいは石棺墓と考えられる。一部ピットに切られているが長さ 2.1 m幅 84㎝、深さ 8㎝をはかる。土坑内部には幅 25㎝、深さ 10 ～ 15㎝の掘り込みがあり、木棺あるいは石棺が据えられていたと思われる。遺構上面は削平を受けており遺構検出面から灰褐色土（1 層）を取り除いた段階で 3 ～ 5㎜大の小石を含む層（2 層）が現れ、2 層面直上でガラス玉が 31 点検出された。遺構上面が削平を受けていた関係上出土遺物がガラス玉以外は土器片が数点のみで時代を特定するのは難しいが、弥生時代中期後半の土坑である 1 号土坑を切ることから弥生時代後期から古墳時代前期と考えられる。ガラス玉については第Ⅳ章にて詳しく記する。

1 号土坑（第 26 図）

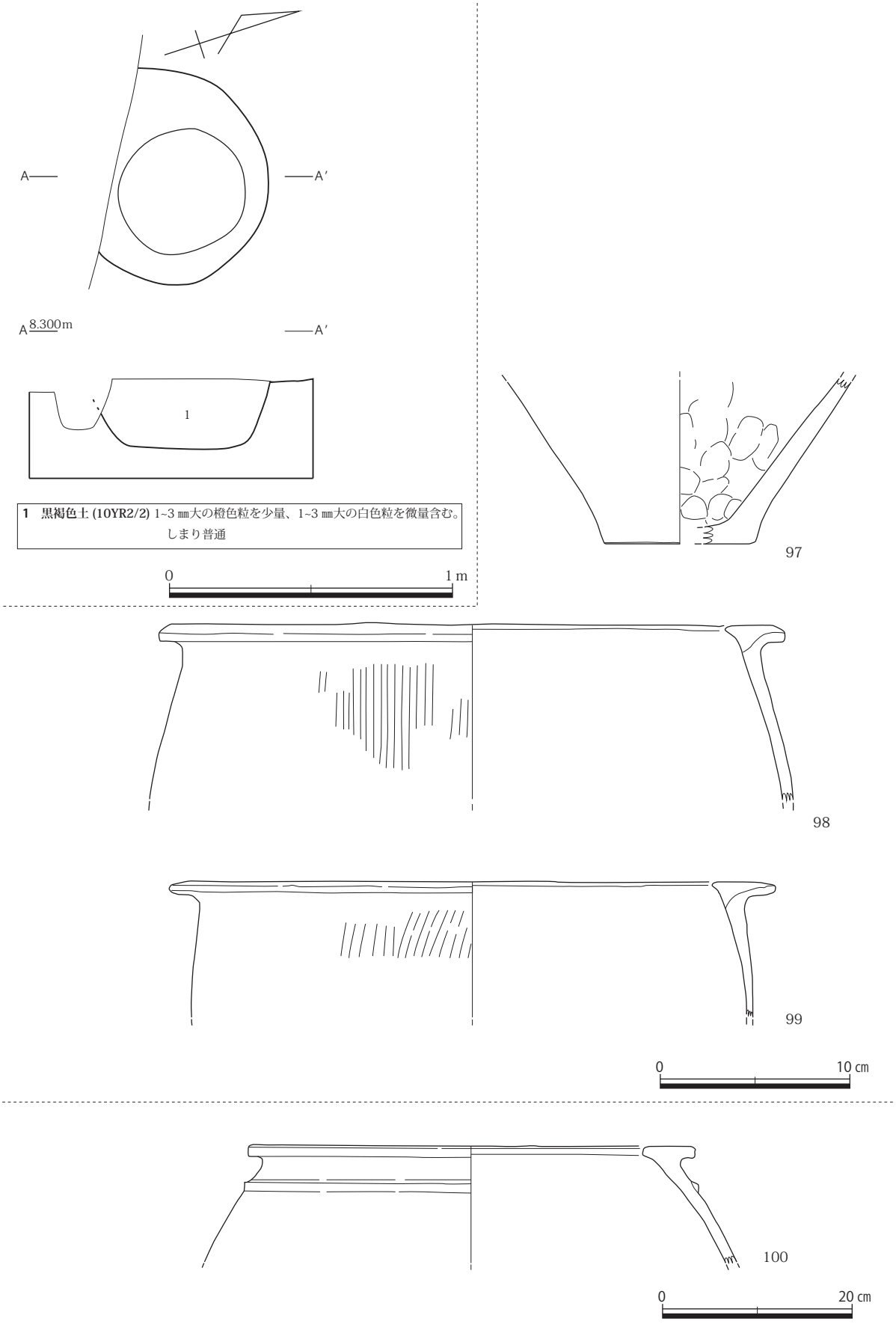
調査区北側で検出された土坑である。南側を 4 号土坑に切られているが、直径 75㎝、深さ 25㎝の円形を呈する。時期は出土遺物から弥生時代中期後半と考えられる。

出土遺物（第 26 図）　**97** ～ **100** は弥生土器。**97** は甕の底部。底径 8.0㎝、残存高 8.7㎝。内面は指圧痕が残る。外面は摩滅が激しく調整不明だが一部にヨコナデが残る。**98** は甕。口径 33.0㎝、残存高 9.2㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面には一部ハケ目が残る。**99** は甕。口径 32.0㎝、残存高 7.1㎝。内外面共に摩滅が激しく調整不明だが、外面には一部ハケ目が残る。**100** は甕棺の口縁部。口径 47.0㎝、残存高 12.2㎝。内面はナデ。外面は摩滅が激しく調整不明だが、ヨコナデが残る。ＫⅢｂ式。

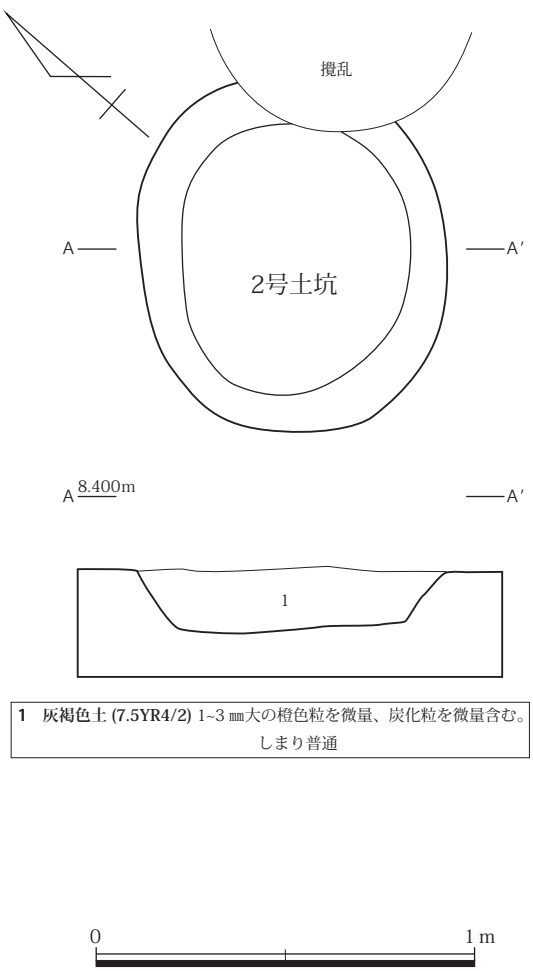
2 号土坑（第 27 図）

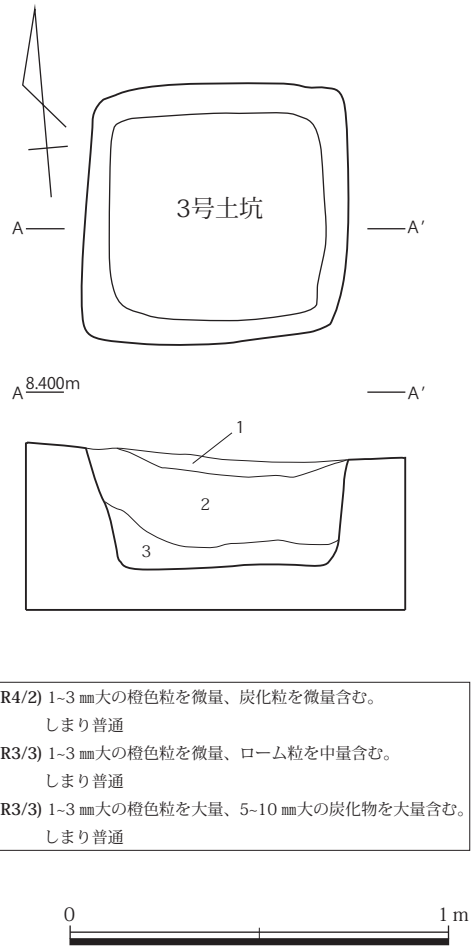
調査区中央部で検出された土坑である。長径 90㎝、短径 80㎝、深さ 27㎝の円形を呈する。時期は出土遺物から中世と考えられる。

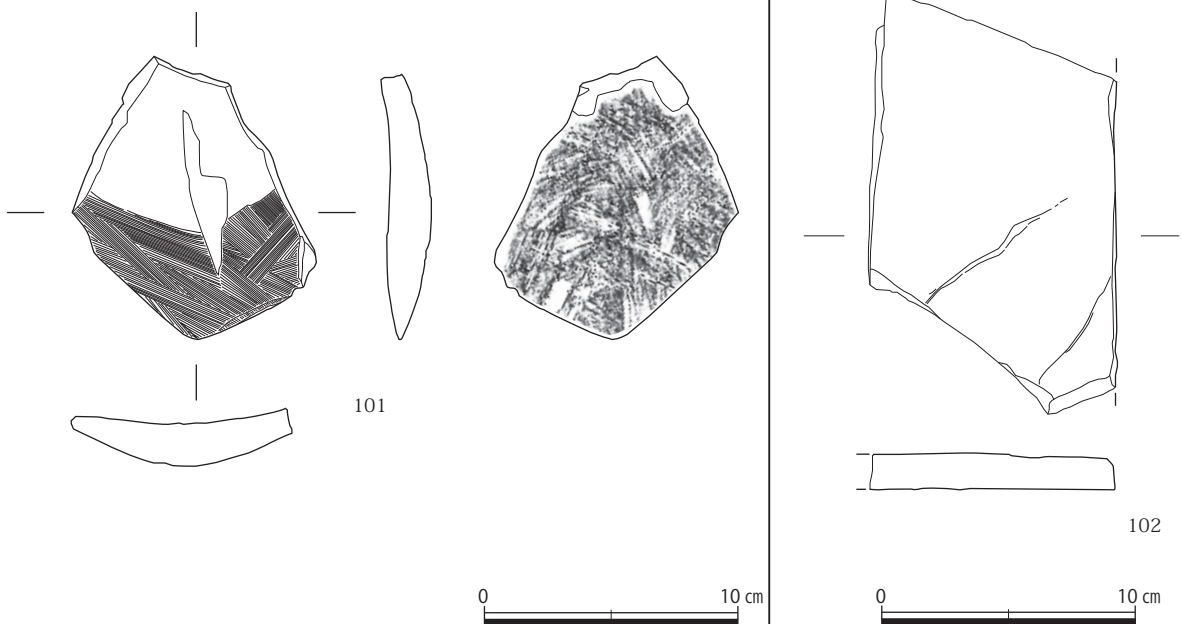
出土遺物（第 27 図）　**101** は砥石。滑石製石鍋の転用。長さ 11.1㎝、幅 9.6㎝、厚さ 1.7㎝。



第 26 図　1 号土坑（S ＝ 1/20）及び出土遺物　（S ＝ 1/3•1/6）







第 27 図　2 号 3 号土坑 （S ＝ 1/20）及び出土遺物 （S ＝ 1/3）

3 号土坑（第 27 図）

調査区北側で検出された土坑である。長さ 70㎝、幅 70㎝、深さ 30㎝の方形を呈する。第 3 層が炭化物を多く含む層であるが、出土遺物も用途不明石製品と土器の破片が数点のみで、時期は不明。

出土遺物（第 27 図）**102** は用途不明石製品。石棺の一部か。長さ 16.5㎝、幅 9.8㎝、厚さ 1.5㎝

7 号土坑（第 28 図）

調査区西側で検出された土坑である。長さ 1.4 m幅 1.0 m深さ 1.35 mの楕円形を呈する。検出面より深さ 50 ～ 70㎝のところが 3 方向でテラス状になっている。検出時は土坑としたが遺物の量、深さなどから井戸である可能性もある。時期は出土遺物から飛鳥時代前半から中頃と考えられる。

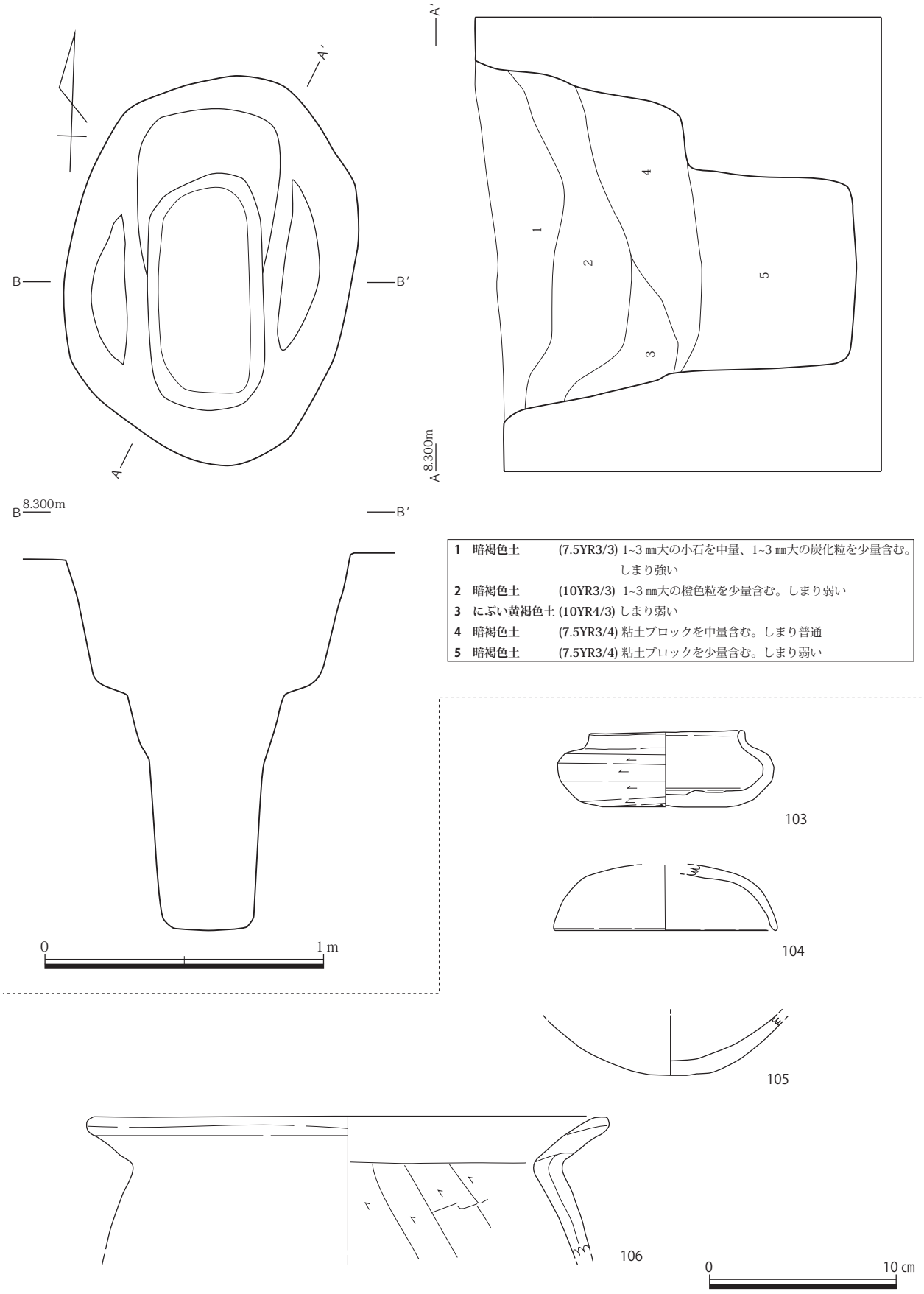
出土遺物（第 28・29 図） **103** ～ **105** は須恵器。**103** は壺。口径 8.0㎝、器高 4.0㎝。内面はヨコナデ。外面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ。**104** は坏蓋。口径 12.0㎝、残存高 3.5㎝。内面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、天井部はナデ。外面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、天井部はナデ。**105** は壺の底部。残存高 3.3㎝。内外面共にナデ。**106** ～ **110** は土師器。**106** は甕。口径 28.0㎝、残存高 7.5㎝。内面は口縁部から頸部にかけて摩滅が激しく調整不明。胴部はヘラケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてヨコナデ、胴部は摩滅が激しいが一部にハケ目が残る。**107** は鉢。口径 17.0㎝、器高 16.0㎝。内面は口縁部はハケ目、胴部から底部にかけてはヘラケズリ。外面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはハケ目。**108** は鉢。口径 17.2㎝、残存高 16.8㎝。内面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ、また板状工具の圧痕あり。外面は口縁部はヨコナデ、胴部から底部にかけてはハケ目。**109** は鉢。口径 11.0㎝、残存高 9.8㎝。内面は口縁部はハケ目、胴部はヘラケズリ。外面は口縁部はヨコナデ、胴部はハケ目。**110** は甕。口径 21.6㎝、残存高 14.2㎝。内面は口縁部から頸部にかけてハケ目後ヨコナデ、胴部はヘラケズリ。外面は口縁部から頸部にかけてハケ目後ヨコナデ、胴部はナデ、一部ハケ目が残る。**111** は初期瓦。長さ 18.5㎝、幅 13.7㎝、厚さ 1.5㎝。凹面凸面共に摩滅が激しく調整不明。**112** は砥石。鋳型の再利用か。石材は砂岩。

5 号土坑（第 30 図）

調査区北側で検出された楕円形状の土坑であり、一部は調査区外、一部は 9 号溝に切られる。長さ 1.07 m、幅 60㎝、深さ 26㎝をはかる。底面は平坦である。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は不明。

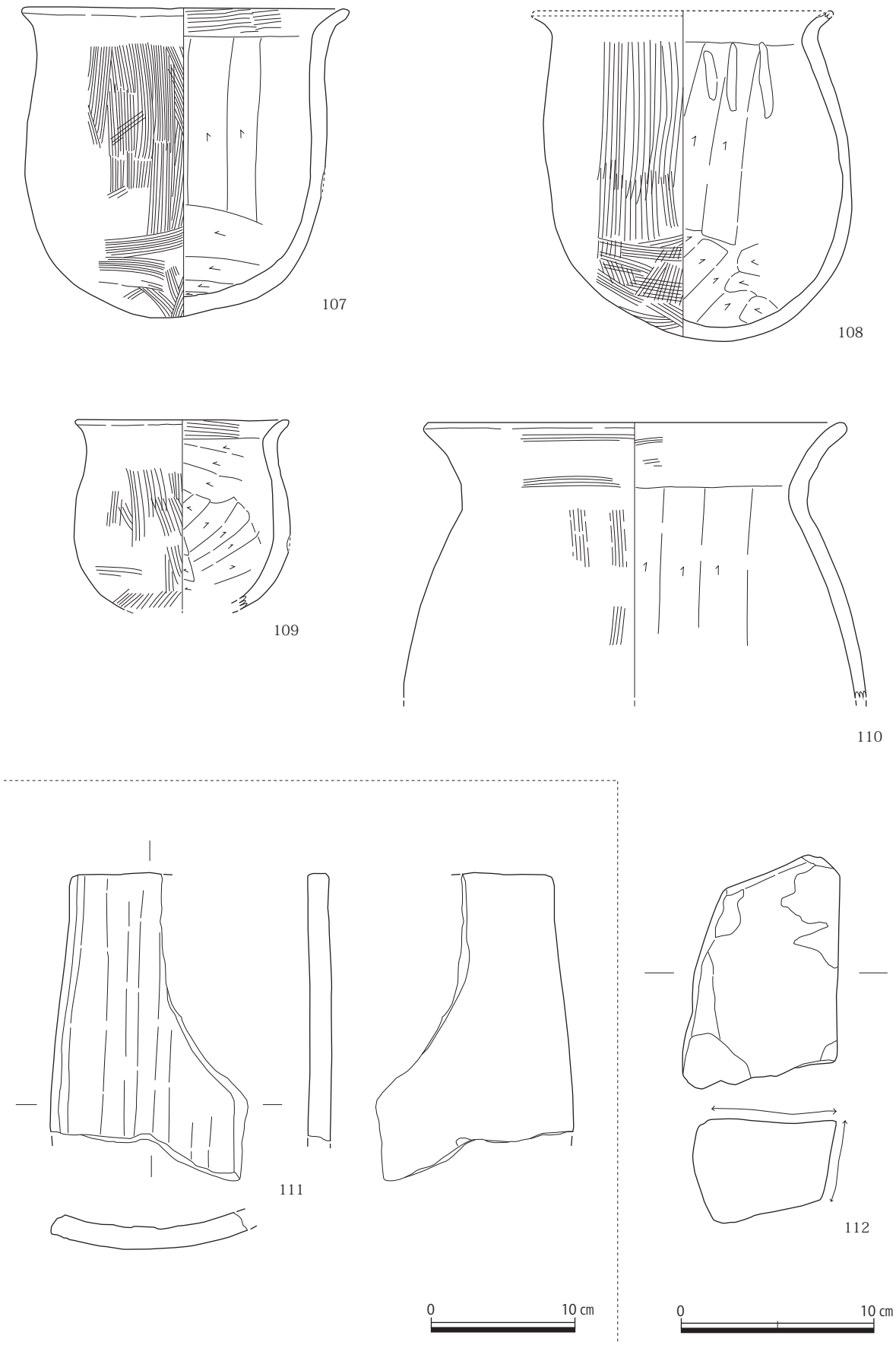
6 号土坑（第 30 図）

調査区東側で検出された隅丸長方形の土坑である。長さ 1.12 m、幅 44㎝、遺構上部は削平を受けているが現状の深さは 10㎝をはかる。底面は平坦だか 2 ヶ所に円形状の掘り込みがある。遺物は土師器の破片のみで図化に耐えうるものは出土しなかった。時期は不明。

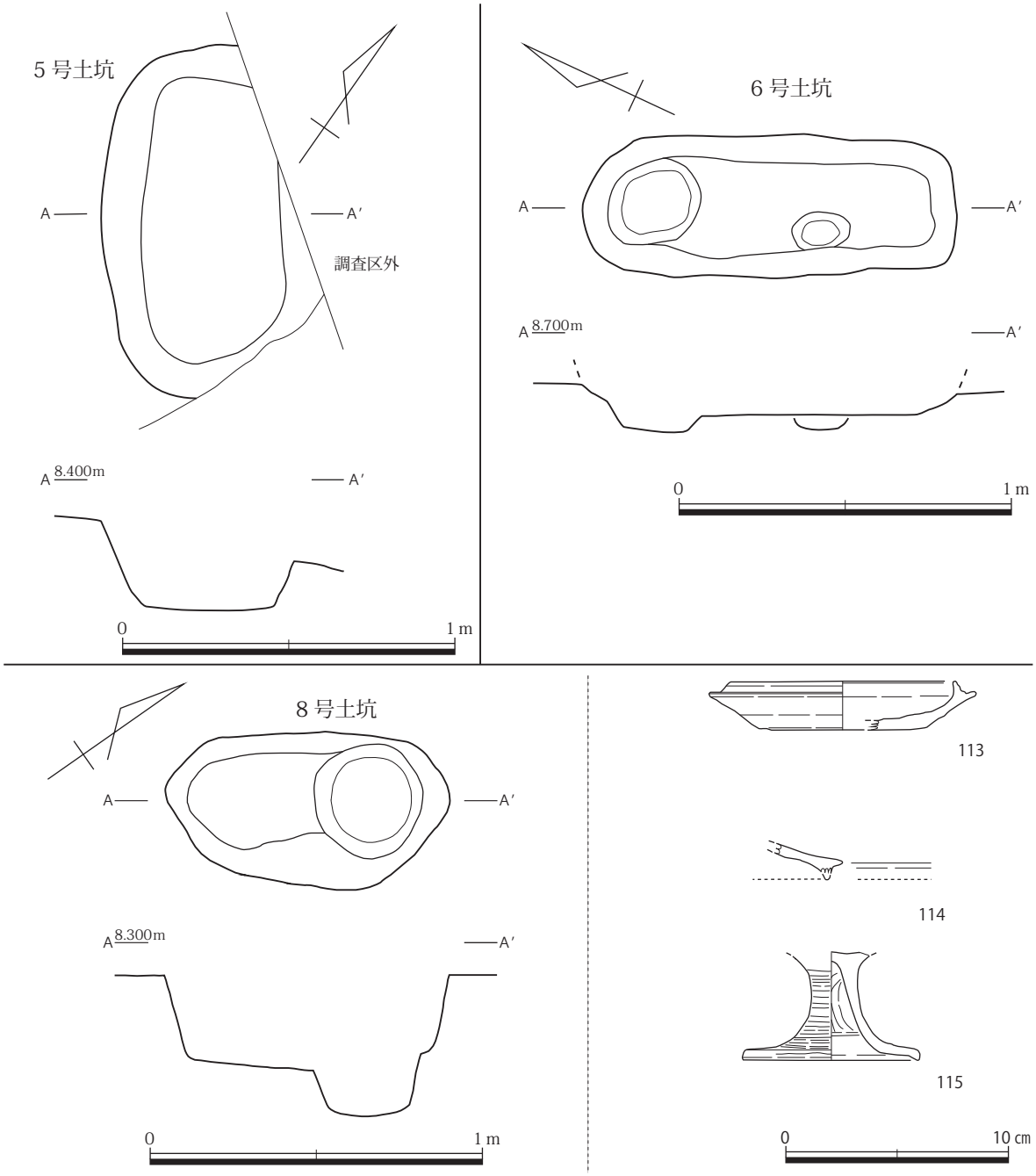


1	暗褐色土	(7.5YR3/3)	1~3 ㎜大の小石を中量、1~3 ㎜大の炭化粒を少量含む。しまり強い
2	暗褐色土	(10YR3/3)	1~3 ㎜大の橙色粒を少量含む。しまり弱い
3	にぶい黄褐色土	(10YR4/3)	しまり弱い
4	暗褐色土	(7.5YR3/4)	粘土ブロックを中量含む。しまり普通
5	暗褐色土	(7.5YR3/4)	粘土ブロックを少量含む。しまり弱い

第 28 図　7 号土坑（S ＝ 1/20）及び出土遺物　（S ＝ 1/3）



第 29 図　7 号土坑出土遺物　（S ＝ 1/3•1/4）

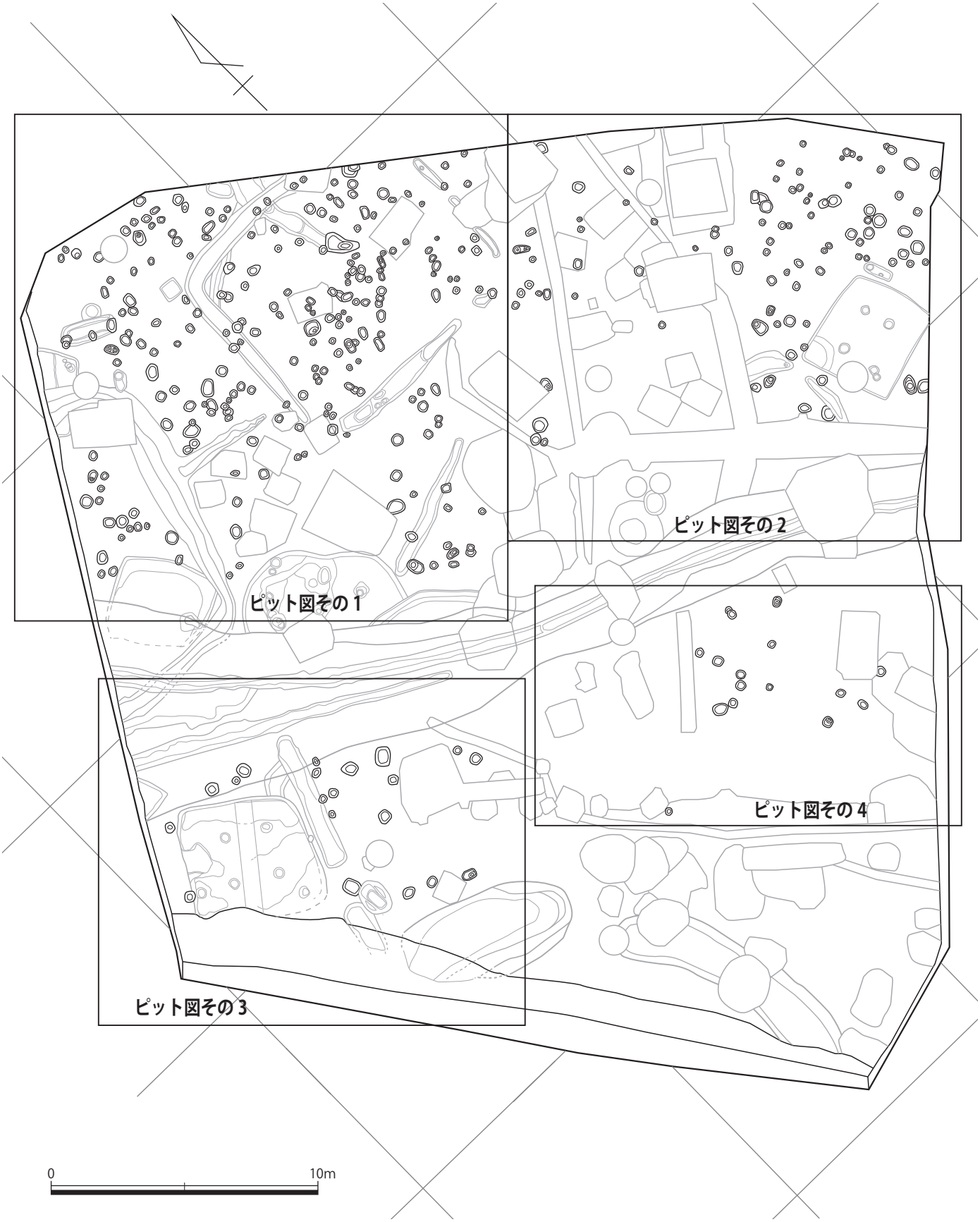


第 30 図　5 号 6 号 8 号土坑（S ＝ 1/20）及び出土遺物　（S ＝ 1/3）

8 号土坑（第 30 図）

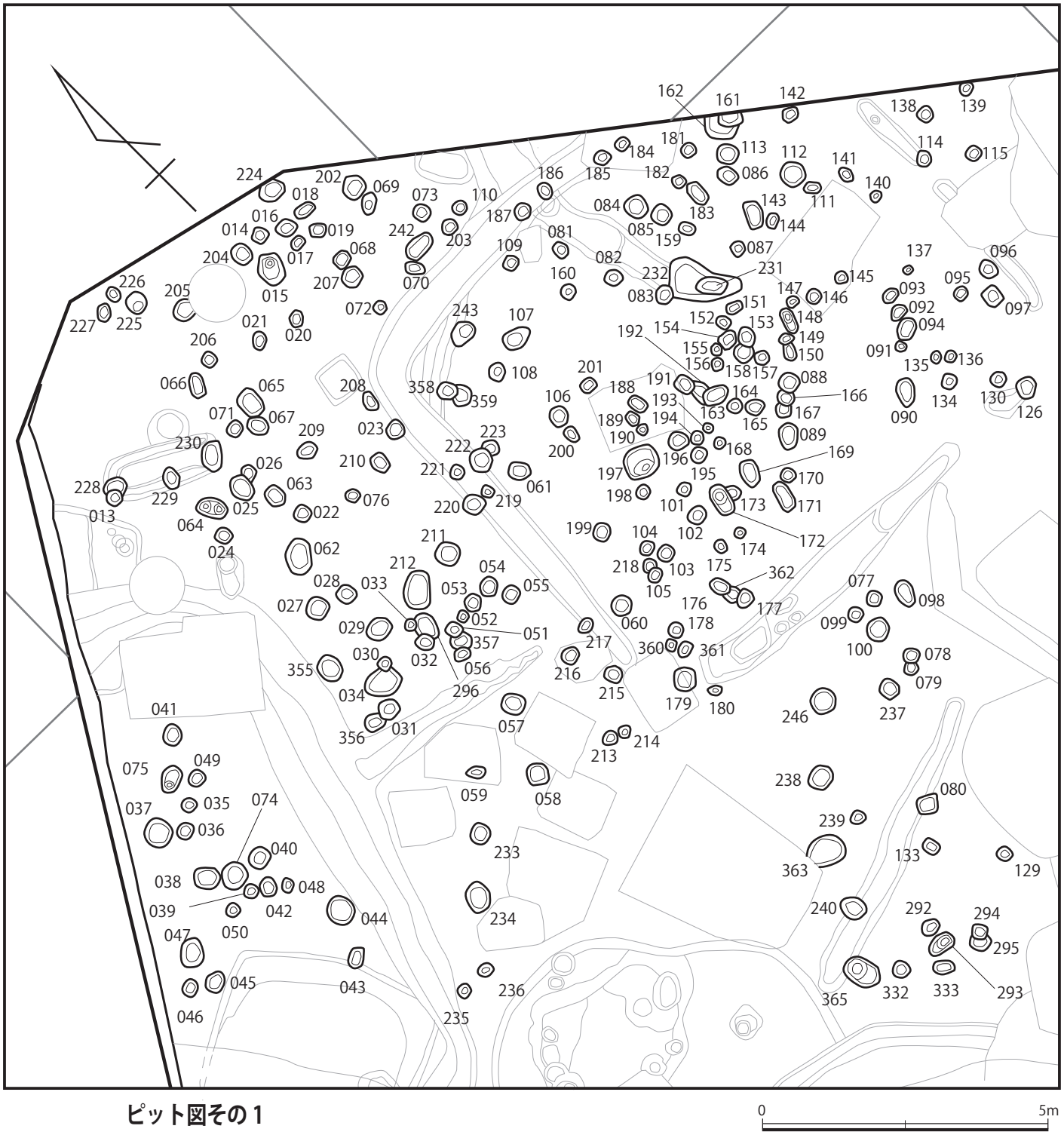
調査区北側で検出された楕円形状の土坑である。長さ 85㎝、幅 47㎝、深さ 27㎝をはかる。底面は平坦だが、1 ヶ所に円形状の掘り込みがある。時期は出土遺物から飛鳥時代中頃と考えられる。

出土遺物（第 30 図） **113** は須恵器の坏。口径 10.2㎝、受部径 12.0㎝、器高 2.2㎝。内面は口縁部から底部にかけてはヨコナデ。底部はナデ。外面は口縁部から胴部にかけてヨコナデ、底部は自然釉がかかり調整不明。**114** は須恵器の蓋。口径不明、残存高 1.4㎝。内外面共にヨコナデ。**115** は土師器の高坏脚部。裾部径 7.8㎝、残存高 4.8㎝。脚部内面はヘラミガキ。指しぼり痕もみられる。外面はヨコナデとヘラミガキ。また内外面共に丹塗りが施されている。



第 31 図　ピット全体図その 1 （S ＝ 1/200）

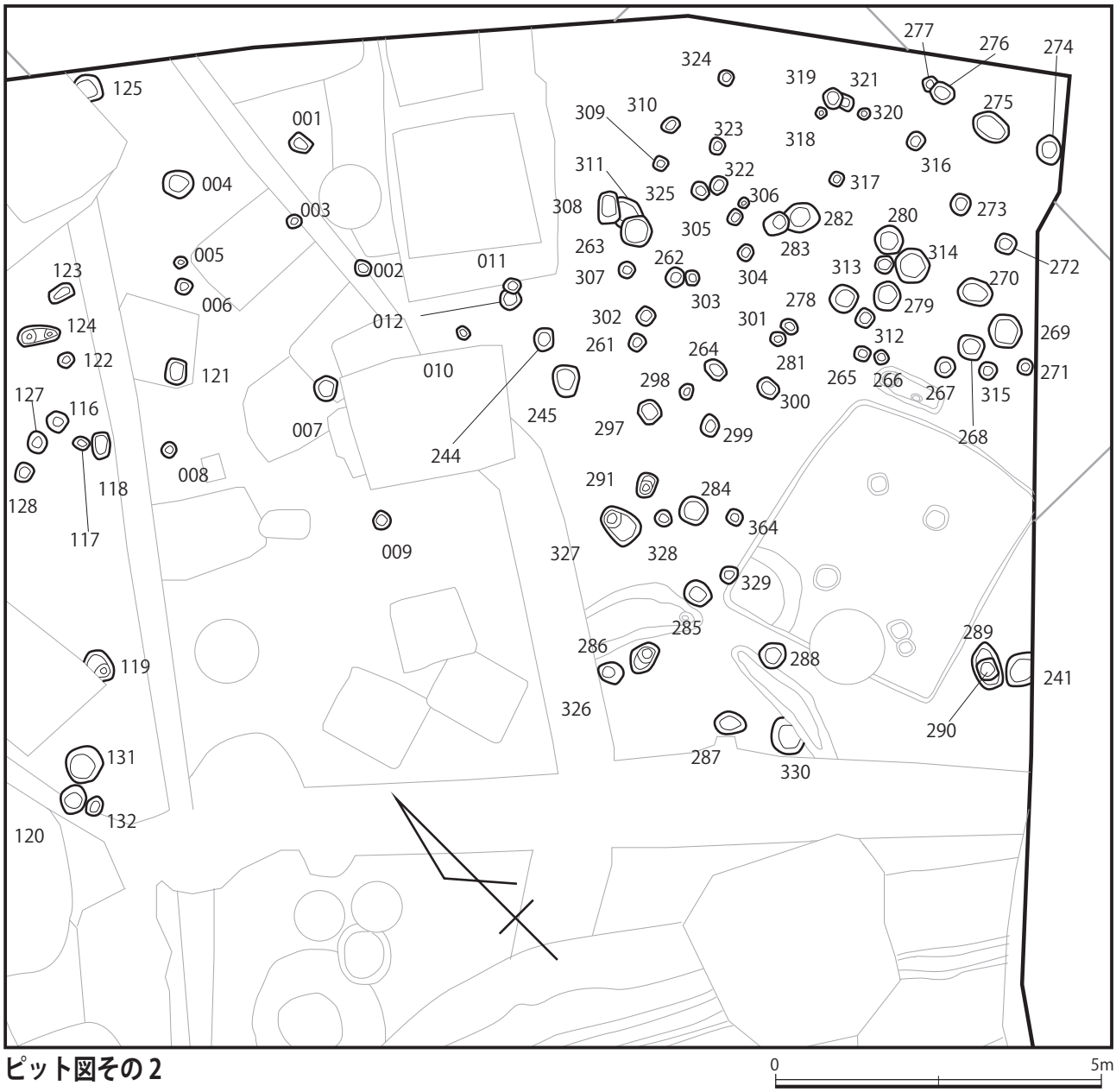
第 32 図　ピット全体図その 2 （S ＝ 1/200）



第 33 図　ピット図その 1　（S ＝ 1/100）

7) ピット

本調査区では、調査区南側は図化していない撹乱も含めて既存建物の基礎などにより全面的に削平を受けており、ピットの検出は少なかったが、北側を中心に 365 基が検出されている（第 31 図）。出土遺物等も少なく時代の特定は難しい。また東西方向・南北方向に並ぶと思われるピットの列は確認できるが掘立柱建物を構成するピット列は明確には確認できなかったので、第 32 図にてピットの



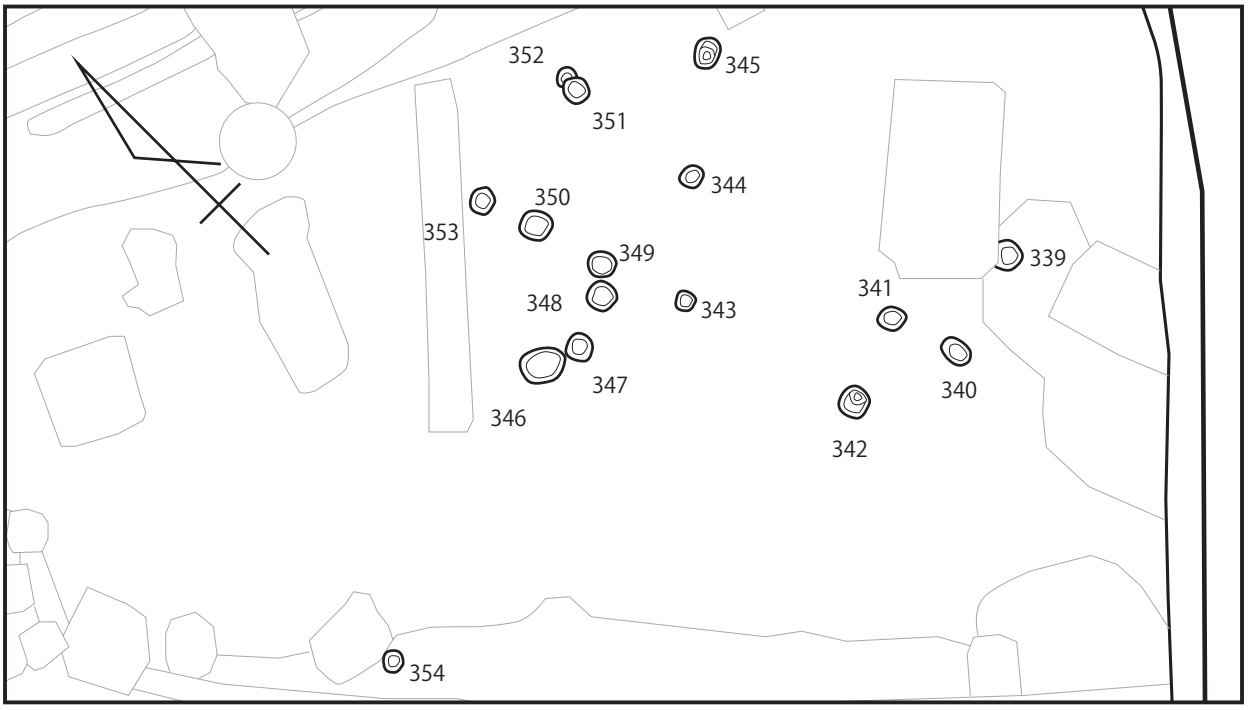
第 34 図　ピット図その 2 （S ＝ 1/100）

深さを色分けで提示し、ピット番号（第 33・34・35 図）とピット計測表を掲載するに留める。

出土遺物（第 36 図） **116** は須恵器の坏身。ピット 241 から出土。口径 11.8㎝、器高 3.1㎝。内面は回転ナデ。外面は口縁部から胴部にかけて回転ナデ、胴部から底部にかけてはヘラケズリ。**117** は瓦質土器。ピット 090 から出土。底径 6.8㎝、残存高 4.0㎝。内面はナデ。外面はナデ後ミガキ。外底部はナデ。**118** は砥石。ピット 170 から出土。長さ 14.6㎝、幅 7.6㎝、厚さ 5.2㎝。全面に磨り。石材は砂岩。**119** は石鍋。ピット 090 から出土。口径 25.2㎝、残存高 9.0㎝。内面は荒削り後研磨。外面は粗削り後に縦方向の細いケズリ、最後に横方向の研磨。

ピット図その3

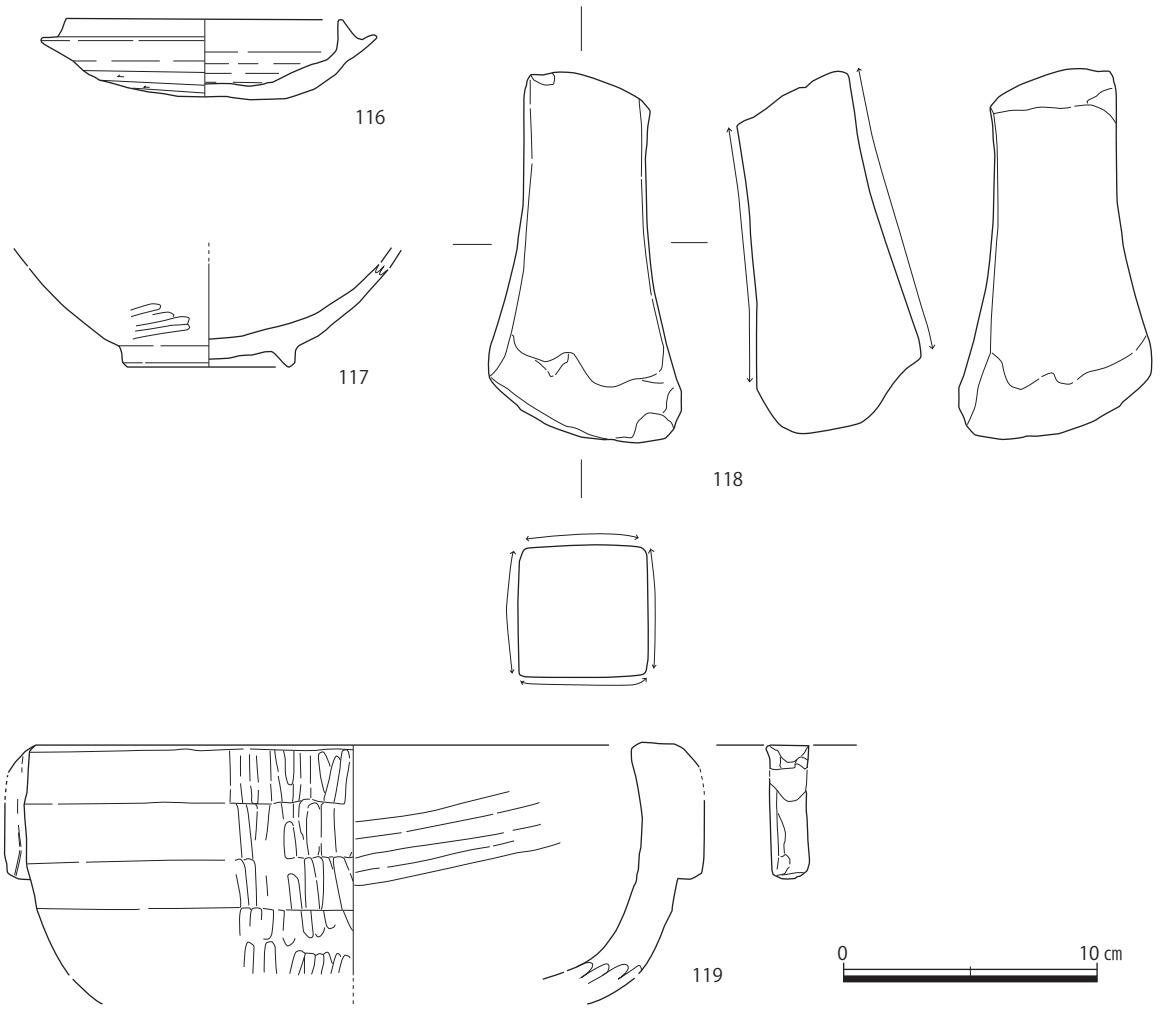
0 5m



ピット図その4

0 5m

第35図　ピット図その3・その4　（S＝1/100）



第 36 図　ピット出土遺物　（S ＝ 1/3）

⑶　まとめ

今回の那珂遺跡群第 171 次調査では、既存建物の基礎などにおける撹乱が激しく、また後世の掘削による遺構上部の削平など遺構検出という面では、充分に遺構を検出できなかったが、当調査区が集落跡という事もあり、住居跡・井戸・区画溝・方形周溝状遺構などを検出する事で、弥生時代から中世にかけての集落の広がりを確認することができた。

また今回の調査で検出された遺構で、特に注目すべきものは調査区南側で検出された 14 号溝・15 号溝で構成される古墳の周溝である。時期は那珂八幡古墳より時期を後にする古墳時代初頭と考えられる。主体部を含む南側の大半が後世の掘削により失われており、残存部分は 2 割程度であるが、隣接する那珂八幡古墳との関連性など、古墳時代初頭の那珂八幡古墳周辺の景観を考える上で重要な資料となった。

ピット	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	標高（m）	ピット	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	標高（m）	ピット	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	標高（m）
001	34	25	49	7.89	**062**	68	45	40	7.90	**123**	40	23	20	8.16
002	25	18	12	8.07	**063**	32	32	18	8.12	**124**	64	25	16	8.21
003	22	21	8	8.05	**064**	52	30	18	8.05	**125**	44	35	14	8.01
004	46	40	24	8.00	**065**	50	38	68	7.57	**126**	35	28	17	8.20
005	16	15	29	8.04	**066**	31	23	21	7.96	**127**	30	25	20	8.19
006	25	22	12	8.22	**067**	39	30	14	8.13	**128**	27	26	18	8.21
007	35	34	24	7.99	**068**	28	26	8	8.04	**129**	25	21	18	8.19
008	20	18	10	8.32	**069**	34	24	36	7.84	**130**	25	24	42	7.96
009	25	24	14	8.21	**070**	37	22	12	8.16	**131**	54	52	23	8.12
010	20	17	14	8.28	**071**	28	26	15	8.08	**132**	26	25	23	7.97
011	26	20	14	8.27	**072**	20	18	16	8.12	**133**	29	22	15	8.33
012	31	29	12	8.29	**073**	28	26	8	8.19	**134**	24	24	23	8.18
013	27	26	43	7.67	**074**	46	42	24	8.05	**135**	21	17	31	8.06
014	26	24	30	7.75	**075**	45	31	37	7.87	**136**	18	17	27	8.11
015	50	42	62	7.51	**076**	20	20	10	8.22	**137**	16	15	16	8.22
016	36	28	32	7.74	**077**	25	25	13	8.27	**138**	24	24	7	8.16
017	25	19	35	7.78	**078**	28	27	22	8.20	**139**	21	22	15	8.12
018	35	22	20	7.86	**079**	23	23	19	8.28	**140**	19	16	11	8.27
019	24	23	25	7.85	**080**	40	32	29	8.10	**141**	27	20	10	8.31
020	27	24	16	8.05	**081**	28	23	32	8.05	**142**	25	24	26	8.04
021	30	21	50	7.68	**082**	30	25	35	8.08	**143**	48	28	53	7.87
022	27	27	14	8.18	**083**	33	29	33	8.11	**144**	24	22	23	8.13
023	33	32	17	8.19	**084**	40	38	51	7.90	**145**	18	18	35	7.92
024	23	23	21	8.00	**085**	34	33	37	8.06	**146**	25	23	28	8.03
025	42	38	53	7.70	**086**	35	27	35	8.10	**147**	20	19	42	7.93
026	30	23	19	8.02	**087**	24	22	25	8.17	**148**	44	23	35	8.06
027	34	33	23	8.10	**088**	36	32	40	8.06	**149**	23	17	12	8.25
028	32	25	47	7.88	**089**	43	33	35	8.06	**150**	33	21	48	7.93
029	43	34	12	8.26	**090**	47	31	40	7.97	**151**	27	18	38	8.09
030	23	22	13	8.24	**091**	18	17	24	8.10	**152**	23	21	54	7.91
031	35	34	14	8.22	**092**	31	23	31	8.04	**153**	33	27	52	7.93
032	30	26	22	8.13	**093**	25	21	30	8.05	**154**	32	27	35	8.10
033	19	12	14	8.23	**094**	39	32	12	8.20	**155**	19	17	22	8.23
034	60	46	10	8.25	**095**	24	22	23	8.15	**156**	22	20	24	8.20
035	23	23	12	8.15	**096**	33	30	38	8.01	**157**	25	21	20	8.25
036	26	25	31	7.96	**097**	34	30	29	8.10	**158**	35	32	34	8.11
037	46	45	30	7.95	**098**	44	30	30	8.09	**159**	27	18	30	8.15
038	41	36	17	8.08	**099**	23	23	34	8.06	**160**	25	23	18	8.22
039	25	23	13	8.17	**100**	41	38	42	7.96	**161**	44	27	36	7.86
040	37	34	19	8.10	**101**	22	22	24	8.17	**162**	61	49	24	8.04
041	35	27	13	8.07	**102**	28	29	32	8.09	**163**	44	29	17	8.26
042	29	31	10	8.20	**103**	29	27	23	8.15	**164**	25	24	19	8.24
043	33	27	24	8.07	**104**	23	22	15	8.23	**165**	30	24	30	8.13
044	49	46	43	7.90	**105**	25	23	5	8.32	**166**	28	25	41	8.05
045	41	30	43	7.79	**106**	33	30	58	7.82	**167**	28	27	30	8.11
046	29	25	8	8.14	**107**	49	34	46	7.91	**168**	20	16	19	8.24
047	40	34	30	7.95	**108**	26	25	34	8.03	**169**	46	31	40	8.04
048	22	19	15	8.16	**109**	26	25	34	8.00	**170**	24	23	30	8.04
049	28	24	20	8.05	**110**	24	24	6	8.23	**171**	52	27	34	8.07
050	21	19	16	8.11	**111**	26	18	21	8.25	**172**	56	34	38	8.06
051	29	25	44	7.91	**112**	43	40	20	8.26	**173**	30	25	17	8.27
052	19	17	11	8.25	**113**	34	33	10	8.30	**174**	19	17	11	8.27
053	28	26	41	7.96	**114**	26	22	30	8.04	**175**	22	20	13	8.26
054	33	28	18	8.19	**115**	24	22	35	8.01	**176**	37	25	36	8.00
055	29	29	36	8.01	**116**	28	30	26	8.15	**177**	31	30	38	7.95
056	28	21	28	8.06	**117**	25	18	9	8.33	**178**	25	23	26	7.98
057	40	36	15	8.18	**118**	36	27	20	8.21	**179**	38	38	50	7.78
058	37	35	19	8.16	**119**	47	32	28	8.02	**180**	22	17	22	8.20
059	29	16	42	7.87	**120**	35	35	20	8.05	**181**	26	24	37	8.04
060	35	33	23	8.04	**121**	34	28	23	8.18	**182**	24	21	15	8.27
061	37	28	45	7.92	**122**	22	21	13	8.25	**183**	45	27	17	8.24

※計測表の標高はピット下端の最深部の高さである

ピット計測表 1

ピット	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	標高（m）	ピット	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	標高（m）	ピット	長径（cm）	短径（cm）	深さ（cm）	標高（m）
184	21	20	21	7.96	**245**	45	39	17	8.25	**306**	18	13	8	8.45
185	28	24	41	7.77	**246**	44	43	27	8.22	**307**	24	22	18	8.33
186	25	21	22	7.91	**247**	40	39	36	7.78	**308**	46	33	43	8.06
187	29	28	28	7.77	**248**	40	35	33	7.88	**309**	20	19	4	8.42
188	33	26	17	8.08	**249**	40	38	20	8.07	**310**	25	21	5	8.33
189	23	23	43	7.85	**250**	52	46	22	8.01	**311**	45	43	19	8.27
190	17	15	10	8.16	**251**	28	28	25	8.05	**312**	24	24	4	8.53
191	34	28	44	7.97	**252**	25	25	10	8.16	**313**	28	25	20	8.35
192	48	30	未計測	未計測	**253**	38	32	32	7.94	**314**	53	52	23	8.29
193	16	16	18	8.24	**254**	54	49	56	7.69	**315**	25	24	13	8.41
194	22	20	12	8.30	**255**	65	55	33	7.82	**316**	26	25	9	8.39
195	26	24	13	8.29	**256**	37	34	21	8.09	**317**	20	19	11	8.40
196	32	30	14	8.27	**257**	32	29	23	8.00	**318**	14	14	16	8.16
197	60	58	31	8.07	**258**	35	34	46	7.76	**319**	29	28	34	8.02
198	23	22	30	8.09	**259**	28	25	25	7.92	**320**	15	14	5	8.41
199	31	28	29	8.05	**260**	26	25	14	8.18	**321**	26	22	12	8.31
200	29	22	22	8.17	**261**	22	20	5	8.54	**322**	26	24	16	8.34
201	27	23	39	8.01	**262**	28	26	27	8.29	**323**	23	23	10	8.33
202	40	37	21	7.89	**263**	48	45	23	8.31	**324**	21	21	14	8.16
203	27	26	28	8.02	**264**	34	28	44	8.15	**325**	28	25	17	8.31
204	38	32	32	7.70	**265**	24	20	7	8.48	**326**	38	32	36	8.03
205	37	35	43	7.67	**266**	19	19	5	8.49	**327**	62	48	45	8.10
206	25	23	23	7.96	**267**	30	27	37	8.17	**328**	24	23	10	8.45
207	36	34	11	8.08	**268**	38	37	48	8.06	**329**	28	24	15	8.43
208	30	25	13	8.20	**269**	48	47	18	8.35	**330**	57	50	16	8.29
209	33	26	15	8.13	**270**	52	40	10	8.41	**331**	50	49	30	7.85
210	33	27	32	7.97	**271**	23	21	14	8.37	**332**	26	26	5	8.40
211	40	39	32	8.03	**272**	30	27	14	8.34	**333**	35	24	20	8.25
212	64	48	4	8.29	**273**	31	27	25	8.25	**334**	45	44	5	8.26
213	26	22	20	8.14	**274**	42	38	22	8.07	**335**	62	54	20	7.95
214	20	20	3	8.31	**275**	59	42	17	8.15	**336**	50	40	31	7.80
215	31	27	68	7.62	**276**	37	29	6	8.27	**337**	42	35	34	7.87
216	32	25	25	8.01	**277**	25	21	9	8.28	**338**	53	37	26	7.95
217	27	21	23	8.05	**278**	39	38	27	8.28	**339**	35	26	50	7.70
218	23	22	12	8.26	**279**	41	40	31	8.24	**340**	39	29	63	7.69
219	22	20	24	7.93	**280**	41	40	24	8.31	**341**	33	27	7	8.24
220	36	32	33	8.03	**281**	24	18	32	8.26	**342**	39	35	12	8.20
221	17	18	12	8.13	**282**	55	43	37	8.17	**343**	24	23	14	8.25
222	40	39	22	8.17	**283**	38	31	54	8.01	**344**	27	25	28	8.09
223	34	26	未計測	未計測	**284**	40	40	14	8.45	**345**	39	32	28	8.09
224	45	35	57	7.37	**285**	41	37	49	8.11	**346**	59	47	18	8.14
225	37	34	32	7.63	**286**	51	38	26	8.28	**347**	35	34	17	8.18
226	24	22	24	7.61	**287**	45	33	11	8.36	**348**	35	35	25	8.12
227	29	23	12	7.73	**288**	40	37	42	8.10	**349**	36	32	15	8.22
228	38	38	31	7.69	**289**	67	42	3	8.28	**350**	39	36	19	8.17
229	36	29	33	7.77	**290**	36	32	38	7.03	**351**	33	31	46	7.91
230	55	33	11	7.87	**291**	37	29	24	8.27	**352**	23	23	10	8.27
231	54	29	42	8.02	**292**	34	27	未計測	未計測	**353**	30	26	49	7.87
232	126	61	6	8.39	**293**	47	28	未計測	未計測	**354**	26	26	5	8.08
233	35	30	19	8.12	**294**	25	22	未計測	未計測	**355**	36	42	19	8.13
234	52	41	49	7.80	**295**	30	25	未計測	未計測	**356**	37	29	16	8.19
235	25	22	7	8.16	**296**	46	45	13	8.23	**357**	34	25	27	8.06
236	24	20	10	8.27	**297**	34	31	14	8.45	**358**	30	27	未計測	未計測
237	35	35	6	8.41	**298**	21	19	19	8.39	**359**	36	27	未計測	未計測
238	40	39	31	8.28	**299**	33	24	20	8.38	**360**	21	13	30	8.00
239	21	21	19	8.31	**300**	32	28	15	8.42	**361**	20	19	26	8.00
240	41	37	31	8.15	**301**	22	19	26	8.29	**362**	35	26	14	8.16
241	49	40	17	8.14	**302**	26	24	26	8.32	**363**	62	47	27	8.18
242	56	32	4	8.23	**303**	21	20	22	8.33	**364**	23	21	19	8.37
243	37	36	43	7.90	**304**	23	20	22	8.32	**365**	64	46	25	8.22
244	31	27	14	8.29	**305**	22	20	46	8.08					

※計測表の標高はピット下端の最深部の高さである

ピット計測表２

第Ⅳ章　自然科学分析

那珂遺跡群 171 次調査出土ガラス小玉の保存科学的調査

比佐陽一郎（埋蔵文化財センター）

１．はじめに

那珂遺跡群 171 次調査で出土したガラス小玉について、デジタルマイクロスコープによる製作技法の観察と、蛍光 X 線分析による材質調査を行った。

近代以前のガラスは珪素を主成分とする珪酸塩ガラスであるが、近年の理化学機器を用いた調査の広まりによって、融剤や着色剤等から幾つかに分類され、それぞれの系譜や変遷が明らかにされてきている（奈良文化財研究所 2006・肥塚 2010）。また、ガラス製品の中でも数多く出土する小玉の類には、製作技法も複数存在することが知られている（大賀 2002）。

２．調査の方法

調査対象とした資料は当該調査区の SK-004 から出土したガラス小玉 31 点である。遺構は木棺墓もしくは土壙墓と見られ、ガラス小玉はその副葬品と考えられる。時期は土器類の出土がなく詳細は不明ではあるが概ね古墳時代と考えられている。今回の調査は、これら小玉の製作技法と、基礎ガラス、着色剤の推定を目的としたものである。調査には福岡市埋蔵文化財センターの装置を使用した。

デジタルマイクロスコープは、試料に光を照射して、反射した光を CCD カメラで検知し、デジタル処理によって拡大しモニターに映し出すものである。画面上での計測や画像の合成、三次元化などの機能が付加されている。使用したのは HIROX 社製 KH-8700 で、観察倍率は 20 ～ 160 倍が使用できる。観察は、表面の凹凸は落射光、内部の気泡や粒子の観察には透過光を用い、ガラス玉に残る気泡や不純物などの流れ、蝕像などを見て、製作技法を判別している。

蛍光 X 線分析は、試料に X 線を照射し、試料に含まれる元素から生じる各元素ごとに特有のエネルギー値を持つ二次 X 線＝蛍光 X 線を検出器で捉え、その元素の種類や量を調べる分析法である。ガラス資料の場合、局部的に強いＸ線を照射するとその部分が変色を来す現象が起きるため、Ｘ線強度が小さくても検出感度の優れたエネルギー分散型蛍光Ｘ線分析法が有効である。またガラスは風化の影響によって組成が変化する場合があり、本来であれば風化層を除去した上で分析を行い、更に標準資料を用いた校正によって含有元素の定量値を算出し、データの比較検討を行うところであるが、遺物を損傷させずに実施したため定性分析のみに止めている。装置は AMETEK 社製のエネルギー分散型微少部蛍光 X 線分析装置 Orbis で、分析条件は次のとおり。

対陰極：ロジウム (Rh) ／検出器：シリコンドリフト検出器／印加電圧：20kV・電流値：1000 μA ／測定雰囲気：真空／測定範囲 0.3mm φ／測定時間 120 秒

３．結果

調査の結果は一覧表に示すとおりである。材質については、今回の調査では完全非破壊分析による定性分析であり、得られた元素の種類と相対強度を手掛かりとして、肥塚氏らによる研究（肥塚ほか2010）に基づく材質的な分類に依拠した分類を試みている。

しかし、今回調査を行った資料は幾つかの点で、これまでの経験則に当てはまらない事項が看取された。まず色調であるが、弥生～古墳前期の青色系の小玉は概ね青紺（コバルトブルー）か淡青（スカイブルー）に区分される。しかし本資料群の場合、緑に区分される２点以外は、大きくは淡青色に見えるものの、緑がかったものや青みが強いものなど、単純に色調を表現することが難しい。

製作技法の点でも、当該期に多い引伸ばし法と明確に判断できるものがある一方、気泡が少なく流れが読みにくいものや、介在物らしきものは孔の長軸に平行するが、表層近くの気泡は不規則に散在するものが複数点ある。これらは一応、疑問符を付して引伸ばしとしているが、更に気泡の流れが見えず、ブロック状の界面が観察される資料は鋳型作りとしている。これらの判断（推定）基準は薄弱と言わざるを得ない。

観察での違和感は材質分析にも表れている。風化で失われやすいとされるナトリウムのピークが、これまでにあまり経験が無いほどに強く現れるものが多い。また、これまではナトリウムが含まれる場合、カルシウムがカリウムのピークを上回ることでソーダ石灰ガラスと判別してきたが、確かにその様な資料もある一方で、カリウム、カルシウムのピーク高が拮抗する資料も少なくない。これらは暫定的にソーダ石灰ガラスと判断するが、とりあえずの明示は控えたい。

４．まとめ

今回の調査においては、No.12 と 13 は緑色の色調や製作技法、検出される元素の特徴などから、これまでにも弥生時代後期以降の遺跡の出土例としてよく見られてきた高アルミナタイプのソーダ石灰ガラスと判別できた。しかし、それ以外の資料については、過去の調査経験に基づく単純な分類が難しいものが多かった。更に、色調や透明感、あるいは製作技法の特徴と、材質分析の結果が符合しない点も、結果を明確に整理できない大きな要因となっている。今後、類例の増加を待って改めて検討する機会が得られれば幸いである。

【参考文献】

大賀克彦 2002「日本列島におけるガラス小玉の変遷」『小羽山古墳群』清水町埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅴ　福井県清水町教育委員会

肥塚隆保 2010「古代ガラスの科学」『月刊文化財』566 号　第一法規

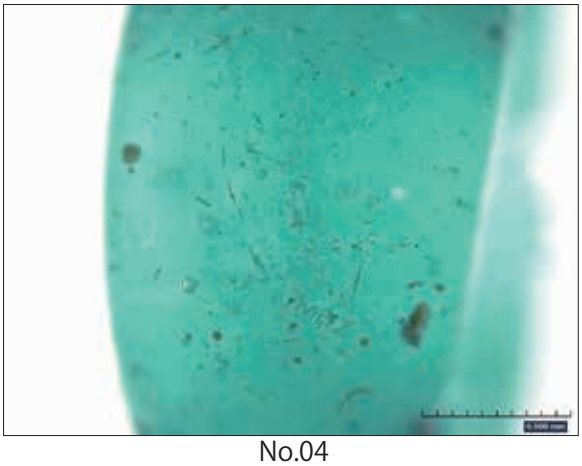
肥塚隆保・田村朋美・大賀克彦 2010「材質とその変遷」『月刊文化財』566 号　第一法規

独立行政法人文化財研究所奈良文化財研究所埋蔵文化財センター 2006『埋蔵文化財ニュース』124 古代のガラス－考古科学的な調査・研究から－

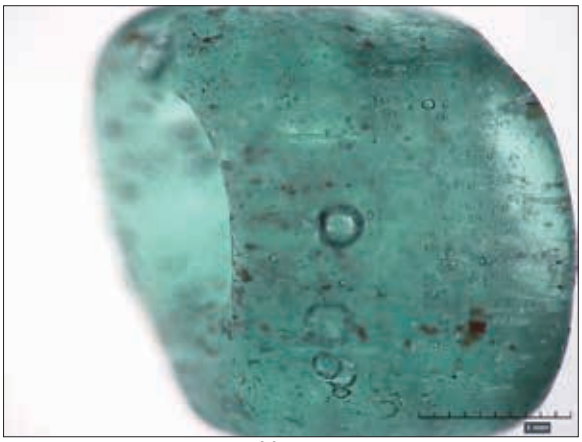
仮番	色調	観察所見	分析所見
1	(淡)青	整った環状ではなく一部が細くなるなど全体に歪。透明度は高い。気泡は規則的に並ぶ部分が見られる。→引伸ばし	◎Si／○Na、Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
2	淡青	整ったドーナツ状を呈するが、部分的に環の太さに差がある。気泡は少なく透明度が低いため流れは読みにくいが、列を成して並ぶように見える部分もある。→引伸ばし	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
3	淡青	整ったドーナツ状を呈する。気泡は少なく透明度が低いため流れは読めない。蝕像が孔に平行して筋状に見える部分がある。→引伸ばし？	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
4	淡青	整ったドーナツ状を呈する。気泡は少なく透明度も低いため流れは読めないが、介在物や蝕像が孔に平行して筋状に見える部分がある。→引伸ばし	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
5	淡青	整ったドーナツ状を呈する。気泡は少なく透明度が低いため流れは読みにくいが、孔に平行して並ぶように見える部分がある。→引伸ばし	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
6	淡青	整ったドーナツ状を呈する。透明度は低い。気泡は独立した大きなものが散在し、流れは読みにくいが、孔に平行して並ぶように見える部分がある。→引伸ばし	◎Si／●Al／○Na、Mg、K、Ca、Ti、Fe、Cu／△Mn、Pb
7	淡青	整ったドーナツ状を呈する。気泡は少なく透明度が低いため流れは読めない。蝕像や介在物が孔に平行して筋状に見える部分がある。→引伸ばし？	◎Si／○Na、Mg、Al、K、Ca、Ti、Fe、Cu／△Mn、Pb
8	淡青	整ったドーナツ状を呈する。気泡は少なく独立したものが散在し、流れは読みにくいが、孔に平行して並ぶように見える部分がある。→引伸ばし	◎Si／○Na、Mg、Al、K、Ca、Ti、Fe、Cu／△Mn、Pb
9	淡青	やや縦長の太鼓状を呈する。透明度は低く、気泡は少なく独立したものが散在し、流れは読めない。蝕像は孔に平行して並ぶように見える部分がある。→引伸ばし？	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
10	淡青	整ったドーナツ状を呈する。気泡は多いが規則性はなく散在あるいは凝集する。不規則なブロック上界面が観察され、所々に石英粒が嵌入。→鋳型	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
11	淡青	平面形は歪な楕円を呈する。気泡は少なく独立したものが散在し、流れは読めない。蝕像や介在物が孔に平行して筋状に見える部分がある。→引伸ばし？	◎Si／○Na、Mg、Al、K、Ca、Ti、Fe、Cu／△Mn、Pb
12	緑	球形に近い外観。黄色や白の微細な介在物が多数入り濁って見える。介在物は孔の長軸方向に平行に並ぶ。→引伸ばし	◎Si／●Al／○Na、K、Ca、Fe、Cu、Pb／△Mg、Ti、Mn →高Alソーダ石灰ガラス
13	緑	やや歪なドーナツ状を呈する。大型の気泡が破裂し欠損となった箇所有り。孔内に突出が数箇所見られる。黄色や白の微細な介在物が多数入り濁って見える。介在物は孔の長軸方向に平行に並ぶ。→引伸ばし	◎Si／●Al／○Na、K、Ca、Fe、Cu、Pb／△Mg、Ti、Mn →高Alソーダ石灰ガラス
14	淡青	全体に歪で表面は凸凹。気泡は規則性はなく散在あるいは凝集する。不規則なブロック上界面が観察され、所々に石英粒が嵌入。→鋳型	◎Si／○Na、Al、K、Ca、Fe、Cu／△Ti、Mn
15	淡青	やや歪な太鼓状を呈する。気泡は少なく透明度が低いため流れは読めない。蝕像が孔に平行して筋状に見える部分がある。→引伸ばし	◎Si／●Na、Al／○K、Ca、Fe、Cu、／△Mg、Ti、Mn、Pb
16	青	整った太鼓状。透明感が高く気泡は独立したものが散在するが、孔の長軸方向に並ぶものも見られる。→引伸ばし	◎Si／●Na、Ca／○Al、K、Fe、Cu、／△Mg、Ti、Mn、Pb →ソーダ石灰ガラス
17	淡青	片側小口が斜めになった筒状。気泡は孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表に近い部分では不規則に散在し、流れが見えない部分もある。→引伸ばし？	◎Si／●Na、Ca／○Al、K、Fe、Cu、／△Mg、Ti、Mn、Pb →ソーダ石灰ガラス
18	青	厚みのあるドーナツ状で整った形状。透明度が低い。気泡は多くが独立、散在するものの孔の長軸に平行して並ぶ。→引伸ばし	◎Si／○Na、Al、K、Ca、Fe、Cu／△Ti、Mn、Pb
19	淡青	丸みを帯びた筒状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読めないが、介在物？が孔の長軸に平行して並ぶ。→引伸ばし	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Ti、Mn、Pb
20	青	厚みのあるドーナツ状で整った形状。気泡は多くが独立、散在するものの孔の長軸に平行して並ぶ。→引伸ばし	◎Si／○Na、Al、K、Ca、Fe、Cu／△Ti、Mn、Pb
21	淡青	片側小口が斜めになった筒状。気泡または介在物は孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表に近い部分では不規則に散在し、流れが見えない部分もある。→引伸ばし？	◎Si／●Na、Ca／○Al、K、Fe／△Mg、Ti、Mn、Cu、Pb →ソーダ石灰ガラス
22	淡青	比較的整った厚みのある形状。透明度が低く気泡も少ないため流れがほとんど読めない。→引伸ばし？（消去法での推定）	◎Si／○Na、Mg、Al、K、Ca、Ti、Fe、Cu／△Mn、Pb
23	淡青	比較的整った厚みのある形状。気泡または介在物は孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表に近い部分では不規則に散在し、流れが見えない部分もある。→引伸ばし？	◎Si／●Na、Ca／○Al、K、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb →ソーダ石灰ガラス
24	淡青	丸みを帯びた筒状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読めないが、介在物？が孔の長軸に平行して並ぶ。→引伸ばし	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
25	淡青	斜めになった筒状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読めないが、介在物？が孔の長軸に平行して並ぶ。→引伸ばし	◎Si／○Na、Al、K、Ca、Fe／△Mg、Ti、Mn、Cu、Pb
26	青	比較的整った筒状。気泡または介在物は孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表に近い部分では不規則に散在し、流れが見えない部分もある。→引伸ばし？	◎Si／●Na、Ca／○Al、K、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb →ソーダ石灰ガラス
27	淡青	やや厚めで丸みを帯びた形状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読めないが、僅かに見える介在物？が孔の長軸に平行する部分が見える。→引伸ばし？	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
28	淡青	やや厚めで丸みを帯びた形状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読めないが、僅かに見える介在物？が孔の長軸に平行する部分が見える。→引伸ばし？	◎Si／●Na、Al／○K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
29	淡青	丸みを帯びた筒状。透明度が低い。気泡は少なく流れは読めないが、介在物？が孔の長軸に平行して並ぶ。→引伸ばし	◎Si／●Na／○Al、K、Ca、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb
30	淡青	斜めになった筒状。気泡または介在物は孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表に近い部分では不規則に散在し、流れが見えない部分もある。→引伸ばし？	◎Si／●Na、Ca／○Al、K、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb →ソーダ石灰ガラス
31	青	側面観が歪む。気泡または介在物は孔の長軸に沿って伸びたものが見られる一方、外表に近い部分では不規則に散在し、流れが見えない部分もある。→引伸ばし？	◎Si／●Na、Ca／○Al、K、Fe、Cu／△Mg、Ti、Mn、Pb →ソーダ石灰ガラス

◎主要元素
●主要元素に次ぐもの
○ピークとして明瞭に確認できるもの
△ピークが微弱なもの

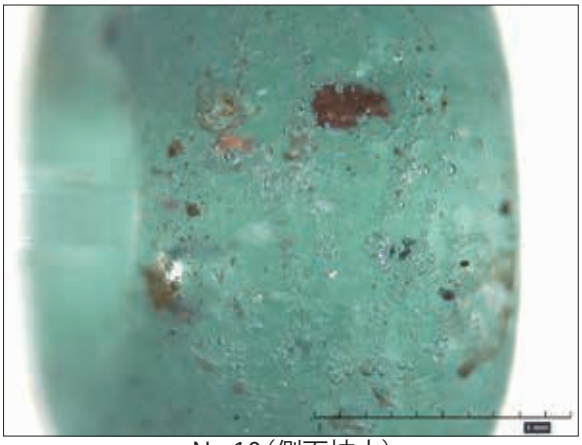
No.01


No.04

No.06


No.17

No.10


No.10（側面拡大）

No.14

No.14（側面拡大）

ガラス小玉のデジタルマイクロスコープ画像

（1）調査区全景（Ⅰ区）　南西から

（2）調査区全景（Ⅱ区）　南西から

（3）古墳周溝　南西から

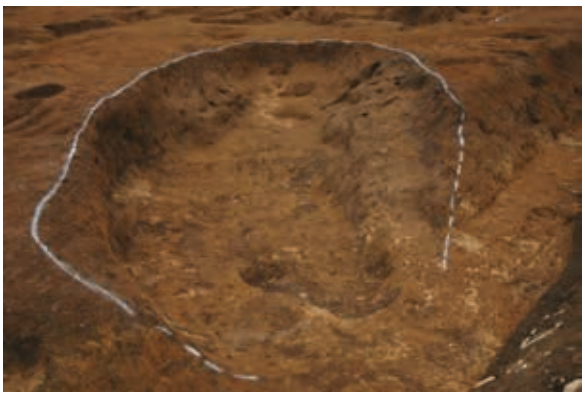
（4）方形周溝状遺構　南東から

（5）1 号住居跡　南東から

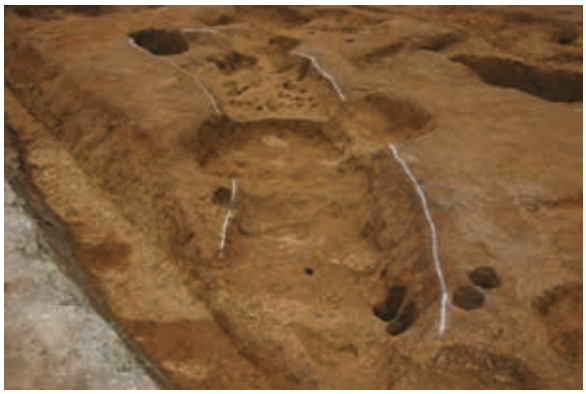
（6）1 号住居跡竈　南東から

（7）4 号土坑　東から

（8）4 号土坑ガラス玉出土状況　東から



（9）古墳周溝（14 号溝）　西から



（10）古墳周溝（15 号溝）　南から

（11）15 号溝遺物出土状況　南から

（12）7 号土坑　東から

（13）1 号井戸　南から

（14）1 号井戸土層断面　南から

（15）1 号井戸遺物出土状況　南から

（16）1 号土坑遺物出土状況　東から

（1）遺物 1

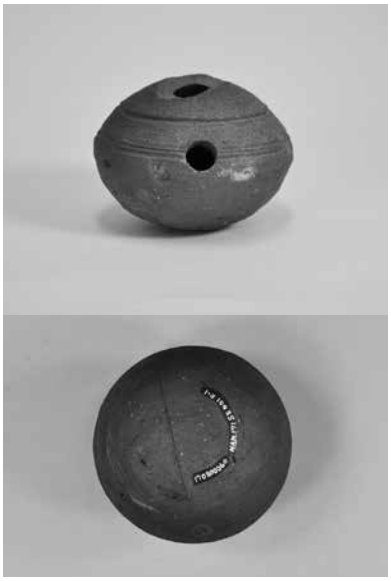
（2）遺物 5

（3）遺物 24

（4）遺物 51

（5）遺物 53

（6）遺物 55



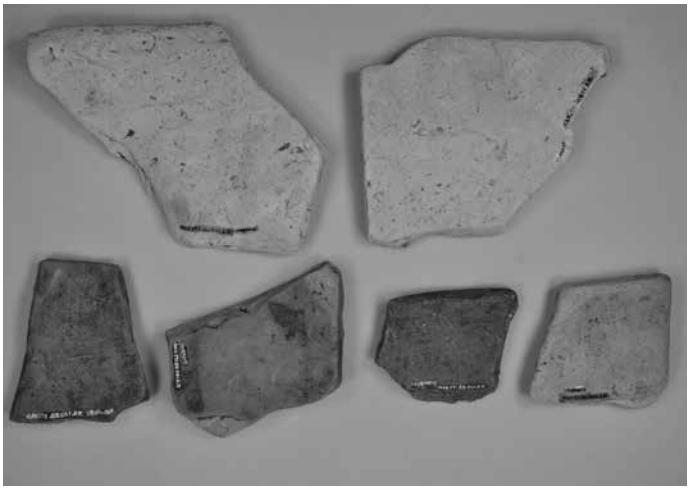
（7）遺物 60

（8）遺物 59

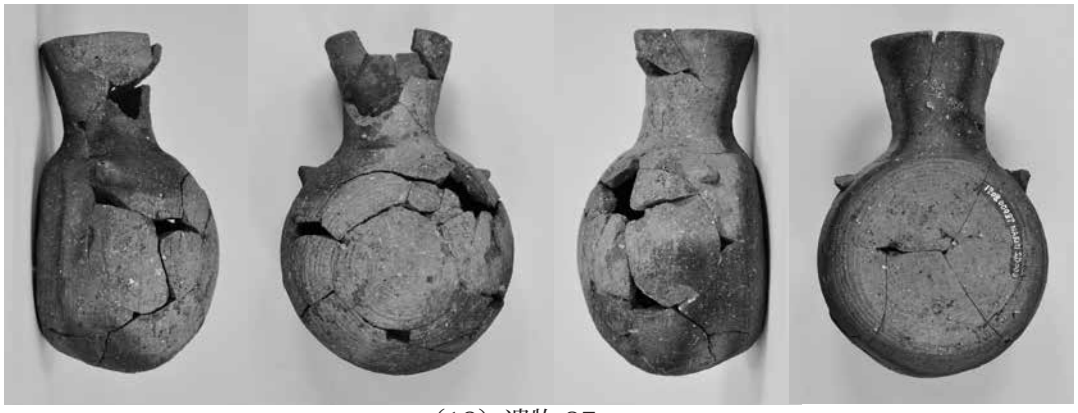
（9）遺物 63

（10）遺物 64

（11）遺物 65

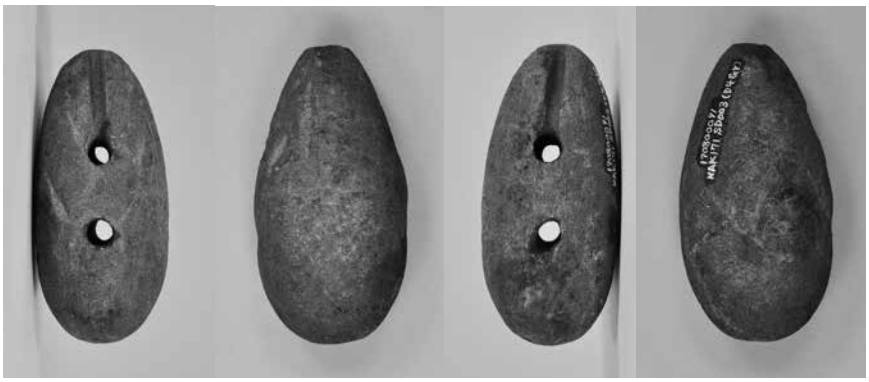


（12）遺物 68 ～ 73



（13）遺物 87

（14）遺物 85



（15）遺物 91

（16）遺物 103

（17）遺物 107

（18）遺物 108

（19）遺物 116

報　告　書　抄　録

ふりがな	なか 79
書名	那珂 79
副書名	那珂遺跡群第 171 次調査報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第 1364 集
編著者名	中園将祥
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒 810-8621　福岡市中央区天神 1-8-1
発行年月日	2019 年 3 月 25 日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
なかいせきぐん 那珂遺跡群	ふくおかしはかたくなか 福岡市博多区那珂 1 丁目 806、807 808、809 番	40132	85	33° 34′ 16″	130° 26′ 06″	20170605 ～ 20170922	1,046	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
那珂遺跡群	集落	弥生時代～中世	古墳周溝　住居跡　井戸溝　土坑　ピット	弥生土器　須恵器　土師器　石器　陶磁器　ガラス玉	古墳の周溝を検出

要　約	本調査地点は、那珂遺跡群の中央部、那珂八幡古墳の北西部に位置する。今回の調査で確認された遺構は、古墳周溝・住居跡・方形周溝状遺構・区画溝・井戸・土坑・ピットなどがあり、特に注目すべきは、14 号溝・15 号溝で構成される古墳の周溝である。時期は那珂八幡古墳より時期を後にする古墳時代初頭と考えられる。主体部を含む南側の大半が後世の掘削により失われており、残存部分は 2 割程度であるが、隣接する那珂八幡古墳との関連性など、古墳時代初頭の那珂八幡古墳周辺の景観を考える上で重要な資料となった。

那珂 79

－那珂遺跡群第 171 次調査報告－
福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1364 集

2019 年（平成 31 年）3 月 25 日発行

発行　福岡市教育委員会
　　福岡市中央区天神 1-8-1
印刷　福岡印刷株式会社
　　福岡市博多区東那珂 1-10-15